

岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

平成 22 年 11 月

岡 山 市

目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 組成分析調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) ごみ袋計量作業	5
(4) 組成調査作業	5
4 組成調査品目	6
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	8
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	8
1 可燃ごみの排出特性	8
(1) 本市全域	8
(2) 西部	12
(3) 東部	17
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	21
2 不燃ごみの排出特性	23
(1) 本市全域	23
(2) 西部	28
(3) 東部	32
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	37
第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	39
1 可燃ごみの状況把握	39
2 不燃ごみの状況把握	41
第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握	43
1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	43
2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	44
第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討	46
1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	46

2	不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討.....	49
第5節	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握.....	52
1	可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量.....	52
	（1）可燃ごみの1袋当たりの投入量.....	52
	（2）可燃ごみの1袋当たりの投入容量.....	53
2	不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量.....	54
	（1）不燃ごみの1袋当たりの投入量.....	54
	（2）不燃ごみの1袋当たりの投入容量.....	56
第3章	家庭ごみ組成分析調査結果の総括.....	57

調 查 概 要

第1章 調査概要

第1節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）から排出される家庭系ごみの組成分析調査を実施することにより、リサイクルに貢献する資源物がどの程度混入しているかを確認すると同時に、排出実態からみたごみの減量化・リサイクルの可能性を検討することを目的として実施したものである。また、本調査結果と昨年の調査結果を比較することにより、啓発の効果を確認した。なお本調査は、以下に示す項目を把握することを目的に行った。

- ① 地域的なごみの排出特性の把握
- ② 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
- ③ 容器包装廃棄物の混入状況の把握
- ④ 再資源化及び減量化の可能性に関する検討
- ⑤ ごみ袋1袋あたりに投入されるごみ量等の把握

第2節 調査内容

1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の2種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」、「事業系ごみ」については、今回の調査対象外とした。

2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表1-1に示す通りとした。

なお、可燃ごみについては、生ごみなどが混入していることから臭気上の問題があるため、収集したごみは即日調査するものとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部			旭川東部		
調査対象地域	北区大窪	北区平田	北区津島	東区西大寺中野	中区福泊	中区御成町
可燃ごみ	収集日時：平成22年10月12日			収集日時：平成22年10月15日		
	調査日時：同上日			調査日時：同上日		
不燃ごみ	収集日時：平成22年10月13日			収集日時：	収集日時：	
				平成22年10月6日	平成22年10月13日	
	調査日時：平成22年10月14日			調査日時：	調査日時：	
				平成22年10月13日	平成22年10月13日	

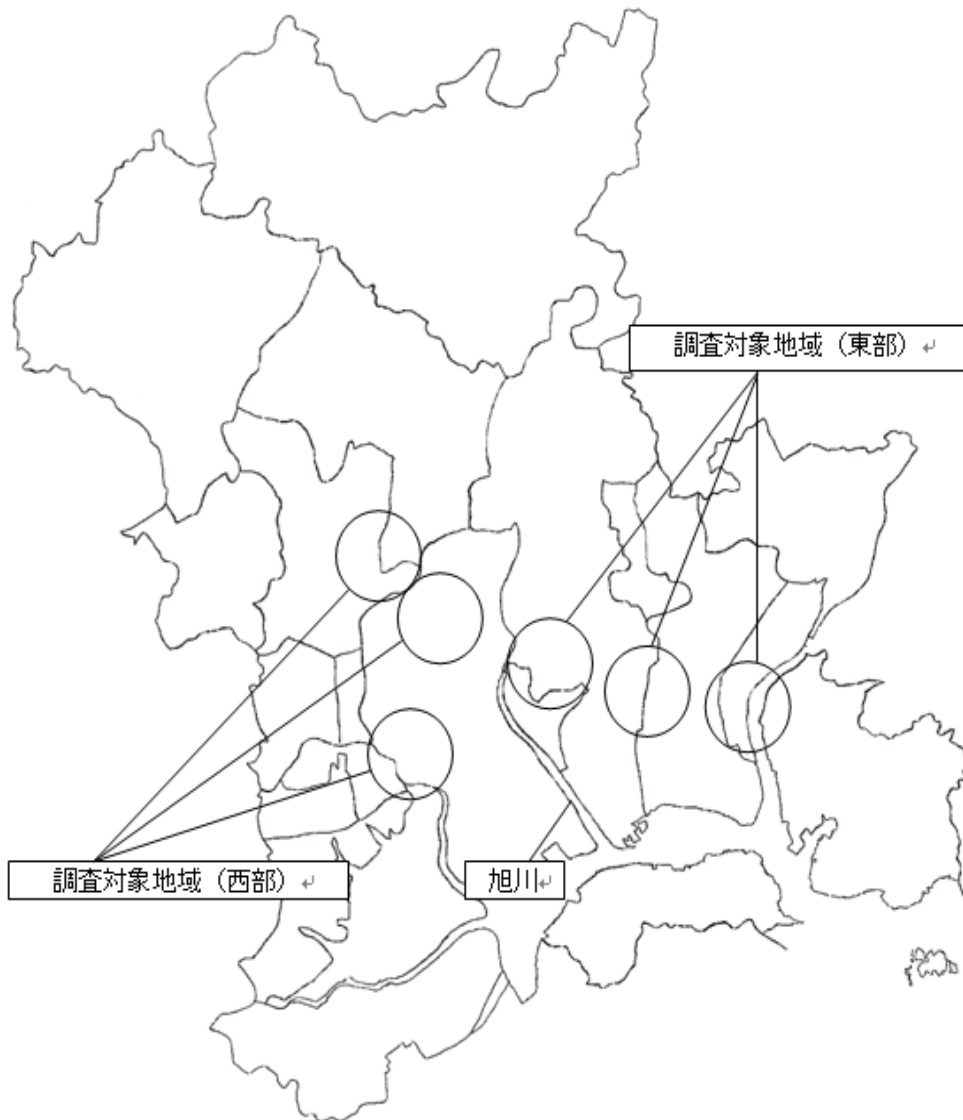


図1-1 調査対象地域

第3節 調査手順

1 調査場所

本調査は、岡山市東部リサイクルプラザの駐車場付近の未舗装部分にて実施した。
調査場所については、図1-2を参照のこと。



図1-2 調査場所

2 作業場所

本調査は、東部リサイクルプラザの駐車場付近を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的としてテントを設営し、組成調査は室内で実施するものとした。同時に、設営したテントの周囲は全面をシートなどで覆い、風による転倒などを防ぐ目的で各コーナーをロープで固定した。

3 調査手順

(1) 組成分析調査検体の搬入

今回の調査では、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または攪拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内等へ了解を得た地区のステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

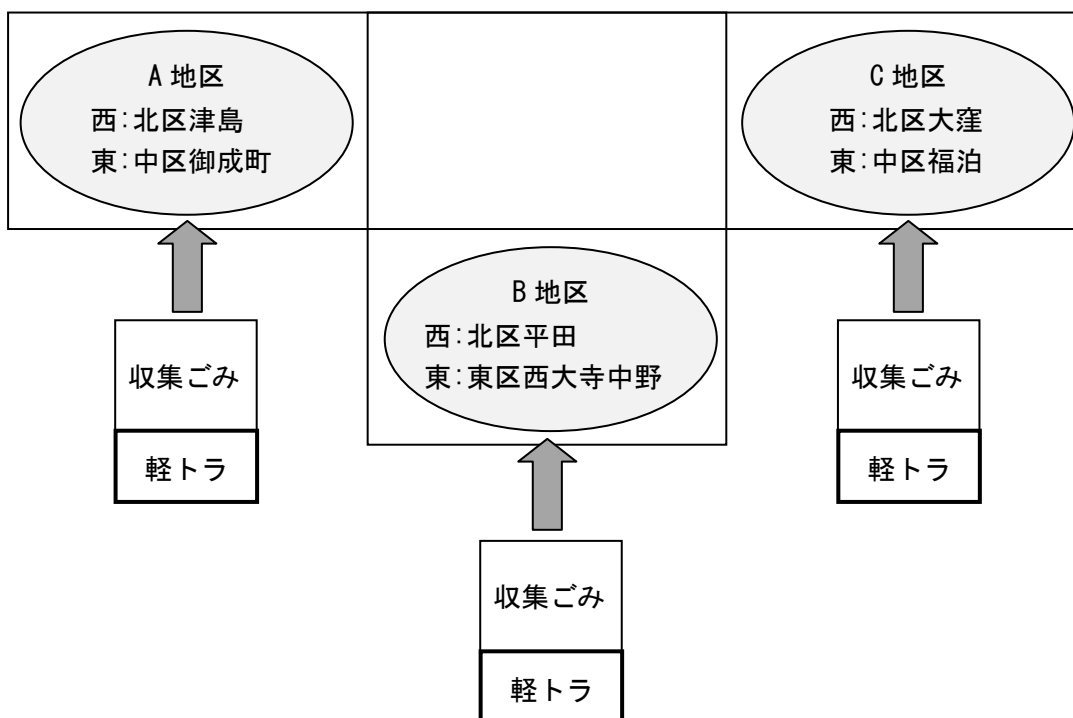


図1-3 調査検体の搬入場所

(2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分¹⁾を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合攪拌した後に四分法²⁾により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋 1 袋あたりに何 kg のごみが入っているのかを確認する目的と併せて、図 1-4 に示すような方法で縮分を行った。

まず、テントへ搬入したごみ（150～200kg 程度）を、**超特小袋（50袋）**、**特小袋（100袋）**、**小袋（200袋）**、**中袋（300袋）**、**大袋（450袋）**の5種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、超特小袋、特小袋、小袋、中袋、大袋ともに奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区分言い、各地域で約80kg程度になるように調整した後（第2次抽出）、合計約240kgに調整したサンプルを最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

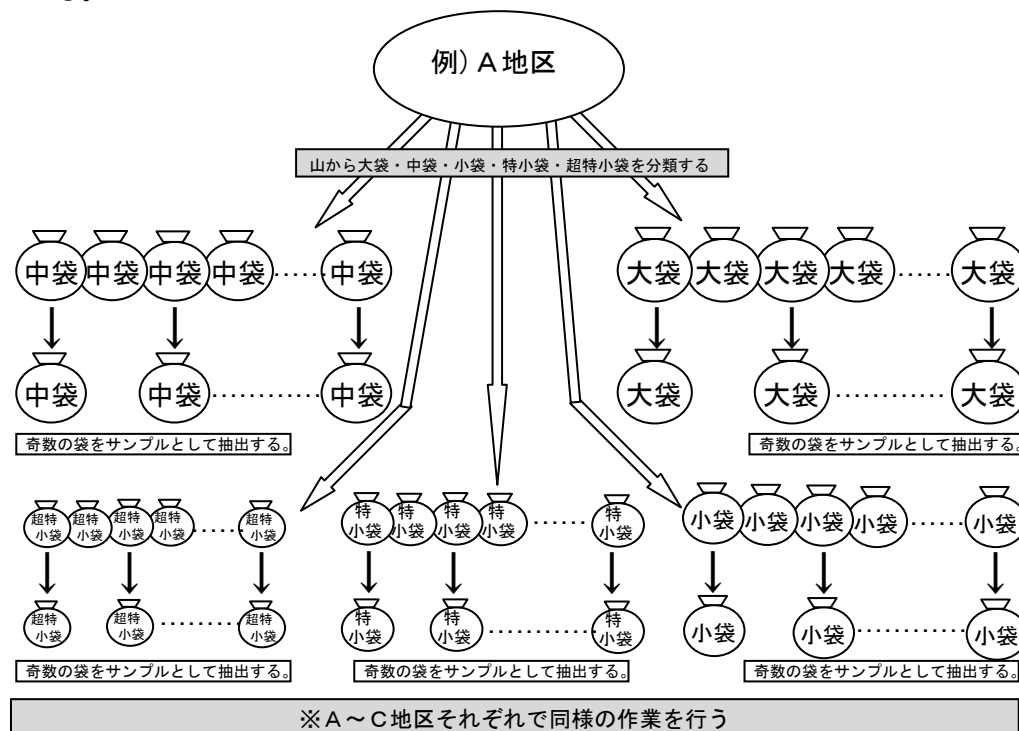


図1-4 縮分方法のイメージ

(3) ごみ袋計量作業

全てのごみ袋を1袋ずつ計量し、ごみ袋1袋当たりの投入状況の確認を行った。

(4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の品目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

-
- 1) 縮分: 多量のサンプルを少なくすることを示す。
 - 2) 四分法: 袋から出したサンプルを平らにした後、4等分して対角を1組として、一方を残し、一方を捨てることにより、均一にごみ量を少なくする方法を示す。

4 組成調査品目

今回実施した組成調査の品目を表 1-2 に整理した。

表1-2 組成調査品目 (1)

大分類	中分類	小分類	具体例	
紙類	飲料用紙パック (アルミ不使用)	1	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	
		2	飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml未満	
	ダンボール	3	ダンボール	
	新聞紙・チラシ	4	新聞紙	きれいな新聞紙
		5	再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
		6	チラシ	きれいなチラシ
		7	再利用したチラシ	水分等を含んだチラシ
	書籍・雑誌類	8	書籍、雑誌類	
	雑紙	9	紙箱類	キャラメル・石鹸の箱・紙袋
		10	紙包装類	包装紙
		11	OA用紙	OA用紙
		12	シュレッダーくず	シュレッダーくず
		13	その他雑紙	ダイレクトメール・手紙・はがき等
	リサイクルできない紙	14	紙おむつ以外	飲料パック(アルミ使用)・汚れた紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・ティシュペーパー・アルミはく
			15	紙おむつ
厨芥類	食品類	16	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
		17	調理くず、食べ残し	上記以外の食品残渣類
	食品以外	18	食品以外の厨芥類	ティーバッグ・タバコの吸殻
布類	リサイクル可能	19	リサイクルできる布類	Tシャツ・タオル・和服・下着・シーツ
	リサイクル不可能	20	リサイクルできない布類	小物・わた入りのもの・毛糸・ナイロン
木、竹、 わら類	剪定枝	21	剪定枝	
	草	22		
	その他	23	その他の木・竹・わら・花	割り箸、鉛筆、わら、
プラスチック類、 ゴム、皮革類	ペットボトル	24	リサイクルできるペットボトル	飲料用、醤油用(きれいなもの)
		25	リサイクルできないペットボトル	タバコ等が混入したもの

表 1-2 組成調査品目 (2)

大分類	中分類		小分類	具体例
プラスチック類、 ゴム、皮革類	レジ袋	25	リサイクルできるレジ袋	きれいな袋
		26	リサイクルできないレジ袋	汚れのひどい袋
	発泡トレイ	27	リサイクルできる発泡トレイ	
		28	リサイクルできない発泡トレイ	汚れのひどいもの
	その他のプラ製容器包装	30	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	シャンプー容器等
		31	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	汚れのひどい容器等
	容器包装以外のプラスチック類	32	容器包装以外のプラスチック類	プラスチック製品・おもちゃ・除湿剤・脱臭剤
	有料指定袋	33	有料指定袋	
	ゴム、皮革類	34	ゴム、皮革類	合成樹脂製品、皮革類・長靴等
	不燃物類	金属類	35	スチール缶
36			汚れたスチール缶	
37			アルミ缶	
38			汚れたアルミ缶	
39			その他の金属類	なべ・食用油缶・延長コード・ペンキ缶
ガラス類		40	リターナルびん	ビールびん、一升びん・牛乳びん コーラびん
		41	汚れたリターナルびん	
		42	ワンウェイびん	調味料のびん・インスタントコーヒーのびん・ドリンク剤のびん
		43	汚れたワンウェイびん	
		44	その他のガラス類	油びん・化粧品びん・汚れたびん 窓ガラス・耐熱ガラス・ガラスコップ
その他		45	陶磁器類	植木鉢・茶碗
		46	複合素材	小型家電製品・かいろ・白熱電球 鏡・保冷剤・乾燥剤
		47	医療系	薬用容器、注射針等
		48	乾電池、体温計(水銀入)	
		49	蛍光灯	
選別残渣	選別残渣	50	選別残渣	分類できないもの

家庭ごみ組成分析調査結果

第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

1 可燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-1 に示した。

本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(24.5%)、「厨芥類」(40.2%)、「プラスチック, ゴム, 皮革類」(24.2%) の3種であり、全体の約 88.9%を占めていた。

個別にみると「紙類」では雑紙(5.5%)、新聞紙・チラシ(2.2%)、リサイクルできない紙(15.0%)が、「厨芥類」では食品類(38.7%)が、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではその他のプラ製容器包装(15.1%)、容器包装以外のプラスチック類(3.1%)、レジ袋(1.6%)、ゴム・皮革類(2.4%)、の構成割合が高くなっている状況であった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(33.7%)、「プラスチック, ゴム, 皮革類」(47.6%) の2種類であり、全体の約 81.3%を占めていた。個別にみると「紙類」では雑紙(8.0%)、新聞・チラシ(3.6%)、飲料用紙パック(アルミ不使用)(2.4%)が、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋(3.6%)、発泡トレイ(2.8%)、その他のプラ製容器包装(31.0%)、有料指定袋(1.9%)、その他プラスチック(3.9%)、ゴム・皮革類(1.5%)、の構成割合が高くなっている状況であった。

重量比と容積比を比較すると、図 2-1 に示すように「厨芥類」では重量比が高く容積比が低い状況となっており、「プラスチック, ゴム, 皮革類」では重量比が低く容積比が高い状況が確認された。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-2、図 2-2~3 に示した。

表2-1 大分類組成分析調査結果 1 (本市全域:可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積			重量・容積		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	98.18	1.325	24.48	33.69	0.074
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-	3.07	0.093	0.77	2.36	0.06
500ml以上	1	2.23	0.065	0.56	1.65	0.034
500ml未満	2	0.84	0.028	0.21	0.71	0.030
ダンボール	3	0.55	0.006	0.14	0.15	0.092
新聞紙・チラシ	-	8.67	0.142	2.16	3.61	0.061
新聞紙	4	0.65	0.001	0.16	0.03	0.650
再利用した新聞紙	5	3.64	0.085	0.91	2.16	0.043
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	4.38	0.056	1.09	1.42	0.078
書籍・雑誌類	6	3.61	0.010	0.90	0.25	0.361
雑紙	-	22.09	0.313	5.51	7.96	0.071
紙箱類	9	6.62	0.148	1.65	3.76	0.045
紙包装類	10	2.71	0.053	0.68	1.35	0.051
OA用紙	11	0.86	0.008	0.21	0.20	0.108
シュレッダーくず	12	2.20	0.023	0.55	0.58	0.096
その他雑紙	13	9.70	0.081	2.42	2.06	0.120
リサイクルできない紙	-	60.19	0.761	15.01	19.35	0.079
紙おむつ以外	14	34.64	0.618	8.64	15.71	0.056
紙おむつ	15	25.55	0.143	6.37	3.64	0.179
厨芥類	-	161.12	0.418	40.17	10.63	0.385
食品類	-	155.27	0.395	38.71	10.04	0.393
手付かずの食品	16	16.25	0.044	4.05	1.12	0.369
調理くず等	17	139.02	0.351	34.66	8.92	0.396
食品以外	18	5.85	0.023	1.46	0.58	0.254
布類	-	12.97	0.118	3.23	3.00	0.110
リサイクル可能	19	4.01	0.045	1.00	1.14	0.089
リサイクル不可	20	8.96	0.073	2.23	1.86	0.123
木、竹、わら類	-	26.25	0.178	6.55	4.53	0.147
剪定枝	21	5.89	0.038	1.47	0.97	0.155
草	22	18.37	0.137	4.58	3.48	0.134
その他	23	1.99	0.018	0.50	0.46	0.111
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	96.87	1.874	24.15	47.64	0.052
ペットボトル	-	3.42	0.120	0.85	3.05	0.029
リサイクルできるペットボトル	24	2.27	0.082	0.57	2.08	0.028
リサイクルできないペットボトル	25	1.15	0.038	0.29	0.97	0.030
レジ袋	-	6.44	0.142	1.61	3.61	0.045
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	6.44	0.142	1.61	3.61	0.045
発泡トレイ	-	1.13	0.109	0.28	2.77	0.010
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.11	0.009	0.03	0.23	0.012
リサイクルできない発泡トレイ	29	1.02	0.100	0.25	2.54	0.010
その他のプラ製容器包装	-	60.43	1.218	15.07	30.97	0.050
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	2.31	0.038	0.58	0.97	0.061
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	58.12	1.180	14.49	30.00	0.049
容器包装以外のプラスチック類	32	12.51	0.152	3.12	3.86	0.082
有料指定袋	33	3.46	0.075	0.86	1.91	0.046
ゴム・皮革類	34	9.48	0.058	2.36	1.47	0.163

表2-1 大分類組成分析調査結果2 (本市全域:可燃ごみ)

項目	全域(可燃ごみ)					
	重量・容積			重量・容積		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	3.38	0.016	0.84	0.39	0.218
金属類	-	0.48	0.007	0.12	0.18	0.067
スチール缶	35					
汚れたスチール缶	36	0.16	0.002	0.04	0.06	0.073
アルミ缶	37	0.04	0.001	0.01	0.03	0.040
汚れたアルミ缶	38	0.18	0.003	0.04	0.08	0.060
その他金属類	39	0.10	0.001	0.02	0.03	0.100
ガラス類	-	0.52	0.0003	0.13	0.01	1.733
リターナブルびん	40					
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42					
汚れたワンウェイびん	43	0.32	0.0002	0.08	0.01	1.600
その他ガラス類	44	0.20	0.0001	0.05	0.00	2.000
その他	-	2.70	0.008	0.67	0.21	0.329
陶磁器類	45	0.67	0.001	0.17	0.03	0.609
複合素材	46	1.96	0.007	0.49	0.18	0.280
医療系	47					
乾電池、体温計(水銀入)	48	0.07	0.000	0.02	0.00	0.700
蛍光灯	48					
選別残渣	50	2.29	0.005	0.57	0.13	0.458
総合計	-	401.06	3.93	100.0	100.0	

注 割合については四捨五入して表記したため合計が100にならないことがある。以下同じ。

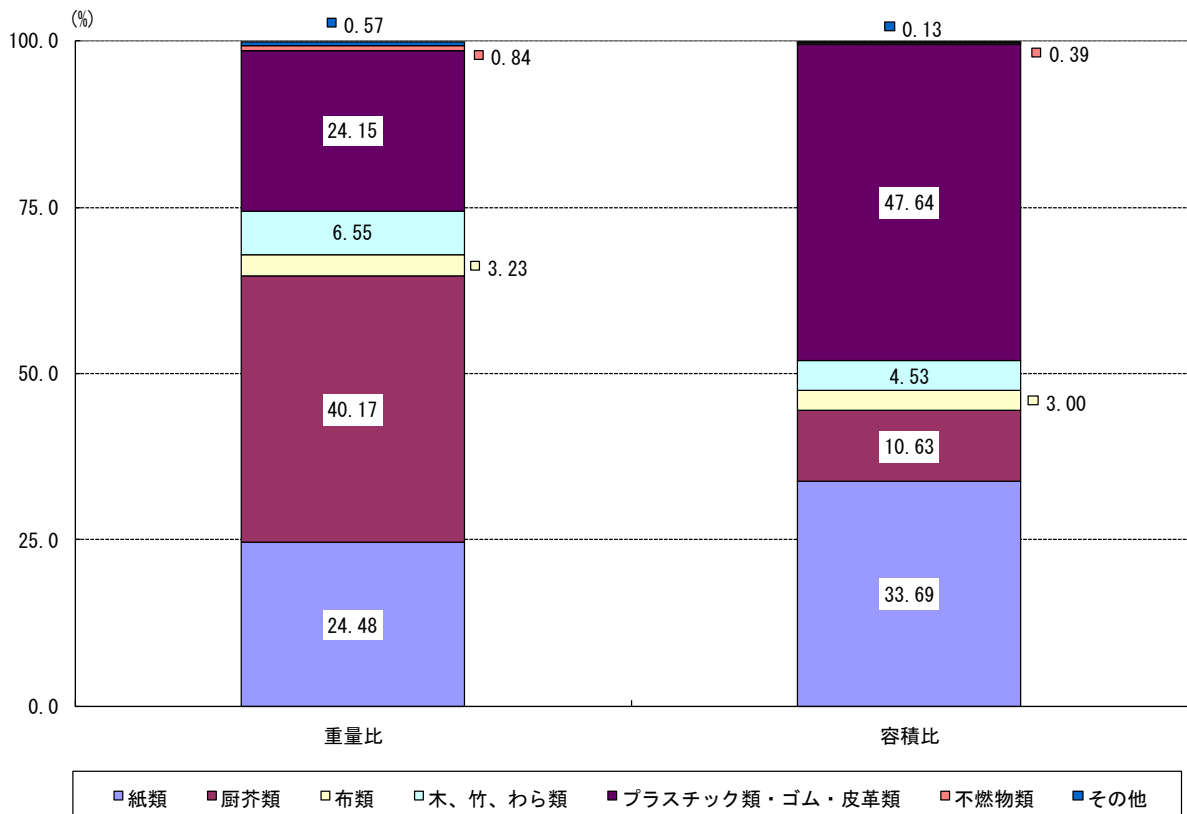


図2-1 重量比と容積比の大分類組成調査結果比較 (本市全域:可燃ごみ)

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

項目	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	24.48	25.59	27.51	33.30	27.70	33.69	39.57	29.01	30.70	35.60
厨芥類	40.17	42.41	44.54	33.30	38.30	10.63	8.18	13.08	8.80	6.10
布類	3.23	4.04	3.39	4.80	4.50	3.00	3.04	2.67	2.70	4.20
木、竹、わら類	6.55	6.88	10.75	9.70	6.10	4.53	3.86	7.82	7.20	3.50
プラスチック類・ ゴム・皮革類	24.15	17.98	10.86	15.90	17.60	47.64	44.92	45.81	50.00	48.80
不燃物類	0.84	0.45	0.48	0.60	2.50	0.39	0.21	0.35	0.30	1.10
その他	0.57	2.65	2.47	2.30	3.30	0.13	0.22	1.26	0.30	0.70
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

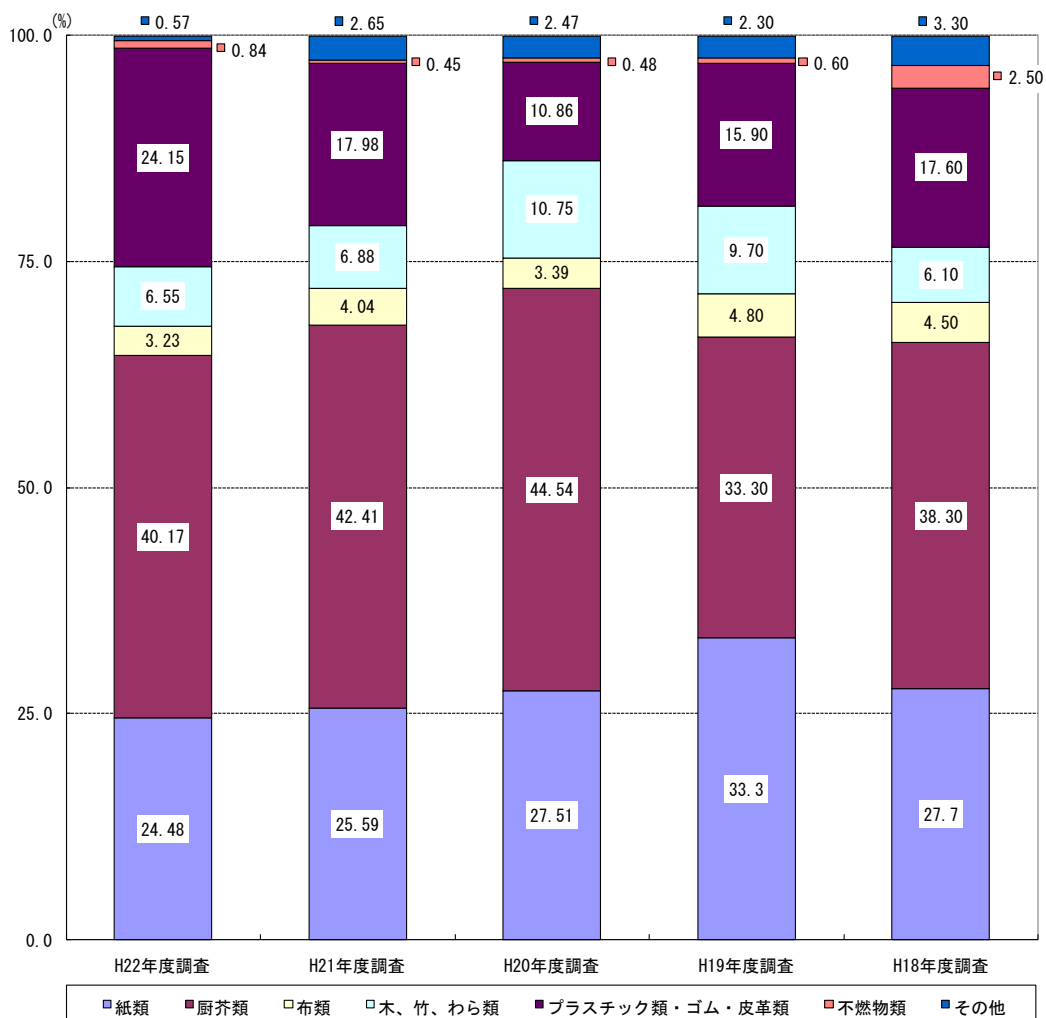


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

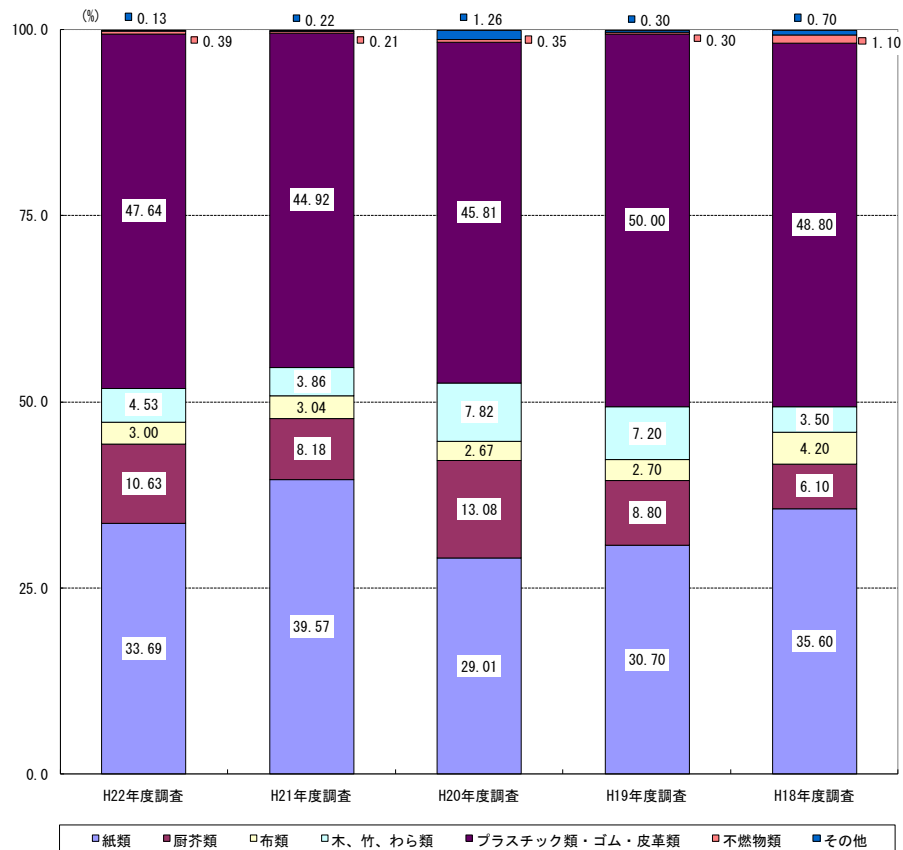


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

（2）西部

今回実施した西部の可燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-3 に示した。

西部の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（25.6%）、「厨芥類」（39.2%）及び「プラスチック、ゴム、皮革類」（25.1%）の 3 種であり、全体の約 89.9%を占めていた。個別にみると「紙類」では雑紙（7.0%）、新聞紙・チラシ（2.0%）、書籍・雑誌類（1.3%）、リサイクルできない紙（14.5%）が、「厨芥類」では食品類（38.8%）が、「プラスチック、ゴム、皮革類」ではその他のプラ製容器包装（14.8%）、容器包装以外のプラスチック類（2.4%）、レジ袋（1.3%）、ゴム・皮革類（4.2%）の構成割合が高くなっている状況であった。

次に、西部の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（37.8%）及び「プラスチック、ゴム、皮革類」（46.4%）の 2 種類であり、全体の約 84.2%を占めていた。個別にみると「紙類」では雑紙（9.0%）、飲料用紙パック（アルミ不使用）（2.3%）、新聞紙・チラシ（3.0%）、リサイクルできない紙（22.9%）が、「プラスチック、ゴム、皮革類」ではレジ袋（2.4%）、発泡トレイ（2.3%）、その他のプラ製容器包装（29.7%）、容器包装以外のプラスチック類（3.9%）ゴム・皮革類（2.3%）の構成割合が高くなっている状況であった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様に「厨芥類」では重量比が高く容積比が低い状況となっており、「プラスチック、ゴム、皮革類」では重量比が低く容積比が高い状況が確認された（図 2-4 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-4、図 2-5～6 に示した。

本年度の調査結果は、平成 21 年度の調査対象地域と類似する地域であったこともあり、平成 21 年度の調査結果に類似していた。

表2-3 大分類組成分析調査結果 1（西部：可燃ごみ）

項目	西部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	52.28	0.806	25.58	37.75	0.065
飲料用紙パック（アルミ不使用）	-	1.67	0.048	0.81	2.25	0.035
500ml以上	1	1.15	0.030	0.56	1.41	0.038
500ml未満	2	0.52	0.018	0.25	0.84	0.029
ダンボール	3	0.18	0.005	0.09	0.23	0.036
新聞紙・チラシ	-	4.04	0.063	1.98	2.95	0.064
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.68	0.035	0.82	1.64	0.048
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	2.36	0.03	1.15	1.31	0.084
書籍・雑誌類	6	2.60	0.01	1.27	0.37	0.325
雑紙	-	14.26	0.193	6.98	9.04	0.074
紙箱類	9	3.74	0.08	1.83	3.65	0.048
紙包装類	10	2.05	0.035	1.00	1.64	0.059
OA用紙	11	0.50	0.005	0.24	0.23	0.100
シュレッダーくず	12	0.84	0.01	0.41	0.37	0.105
その他雑紙	13	7.13	0.067	3.49	3.14	0.106
リサイクルできない紙	-	29.53	0.489	14.45	22.91	0.060
紙おむつ以外	14	18.04	0.428	8.83	20.06	0.042
紙おむつ	15	11.49	0.061	5.62	2.86	0.188
厨芥類	-	80.20	0.213	39.24	9.98	0.377
食品類	-	79.26	0.210	38.78	9.84	0.377
手付かずの食品	16	8.56	0.024	4.19	1.12	0.357
調理くず等	17	70.70	0.186	34.59	8.72	0.380
食品以外	18	0.94	0.003	0.46	0.14	0.313
布類	-	9.49	0.073	4.64	3.42	0.130
リサイクル可能	19	2.69	0.025	1.32	1.17	0.108
リサイクル不可	20	6.80	0.048	3.33	2.25	0.142
木、竹、わら類	-	7.05	0.036	3.45	1.69	0.196
剪定枝	21	4.54	0.028	2.22	1.31	0.162
草	22	1.61	0.01	0.79	0.23	0.322
その他	23	0.90	0.00	0.44	0.14	0.300
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	51.26	0.99	25.08	46.44	0.052
ペットボトル	-	2.30	0.078	1.13	3.65	0.029
リサイクルできるペットボトル	24	1.37	0.050	0.67	2.34	0.027
リサイクルできないペットボトル	25	0.93	0.028	0.46	1.31	0.033
レジ袋	-	2.69	0.052	1.32	2.44	0.052
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	2.69	0.052	1.32	2.44	0.052
発泡トレイ	-	0.58	0.049	0.28	2.30	0.012
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.11	0.01	0.05	0.42	0.012
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.47	0.04	0.23	1.87	0.012
その他のプラ製容器包装	-	30.34	0.634	14.84	29.71	0.048
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	1.00	0.018	0.49	0.84	0.056
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	29.34	0.62	14.36	28.86	0.048
容器包装以外のプラスチック類	32	4.90	0.083	2.40	3.89	0.059
有料指定袋	33	1.81	0.05	0.89	2.11	0.040
ゴム・皮革類	34	8.64	0.05	4.23	2.34	0.173

表2-3 大分類組成分析調査結果2 (西部:可燃ごみ)

項目	西部(可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積(m3)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
不燃物類	-	2.54	0.01	1.24	0.57	0.210
金属類	-	0.41	0.01	0.20	0.28	0.068
スチール缶	35					
汚れたスチール缶	36	0.13	0.00	0.06	0.09	0.065
アルミ缶	37					
汚れたアルミ缶	38	0.18	0.00	0.09	0.14	0.060
その他金属類	39	0.10	0.00	0.05	0.05	0.100
ガラス類	-	0.20	0.00	0.10	0.01	2.000
リターナブルびん	40					
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42					
汚れたワンウェイびん	43					
その他ガラス類	44	0.20	0.00	0.10	0.01	2.000
その他	-	1.93	0.01	0.94	0.28	0.322
陶磁器類	45	0.53	0.00	0.26	0.05	0.530
複合素材	46	1.40	0.01	0.68	0.23	0.280
医療系	47					
乾電池、体温計(水銀入)	48					
蛍光灯	48					
選別残渣	50	1.56	0.00	0.76	0.14	0.520
総合計	-	204.38	2.13	100.0	100.0	

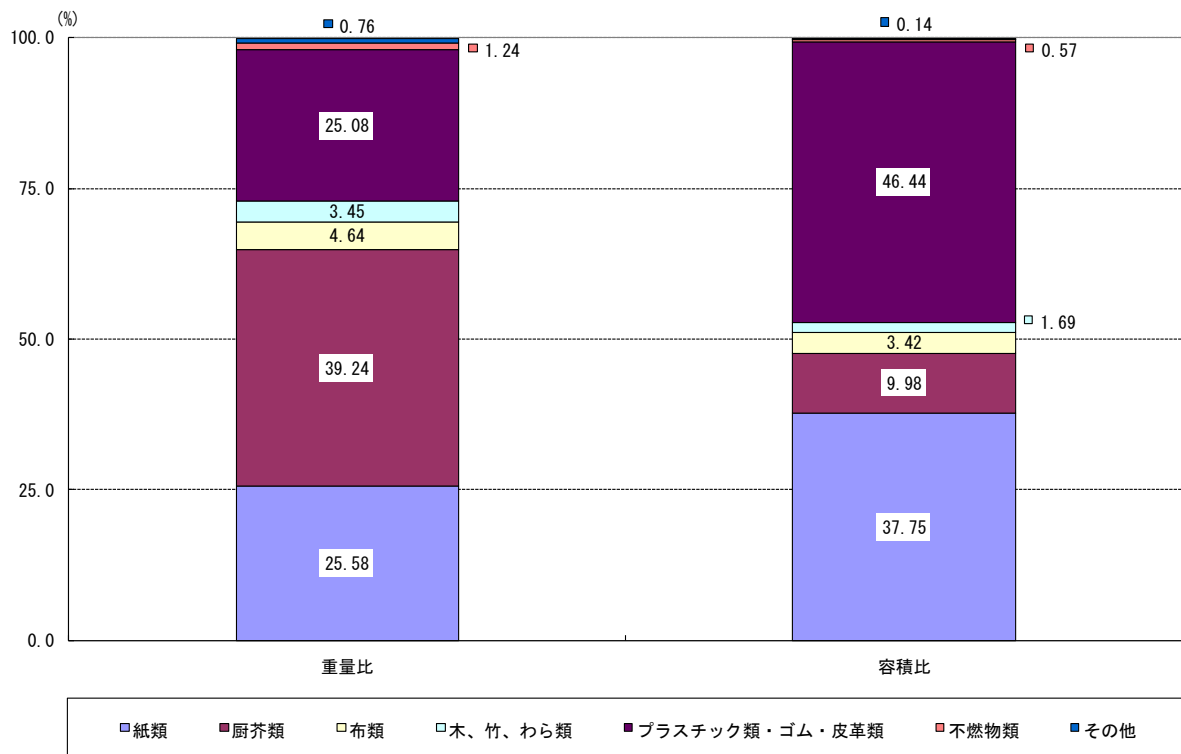


図2-4 大分類組成調査結果 (西部:可燃ごみ)

表2-4 大分類組成分析調査結果の比較 (西部:可燃ごみ)

項目	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	25.58	27.48	29.80	35.00	29.70	37.75	32.30	29.70	34.20	35.60
厨芥類	39.24	42.81	44.20	34.60	43.60	9.98	9.62	11.60	7.50	6.10
布類	4.64	4.11	3.80	5.00	3.80	3.42	3.10	3.00	3.50	4.20
木、竹、わら類	3.45	2.35	9.30	2.60	3.70	1.69	1.85	4.20	3.30	3.50
プラスチック類・ ゴム・皮革類	25.08	19.30	12.00	19.10	15.50	46.44	52.85	51.10	51.10	48.80
不燃物類	1.24	0.26	0.40	0.60	1.60	0.57	0.06	0.20	0.20	1.10
その他	0.76	3.69	0.50	3.10	2.20	0.14	0.22	0.20	0.15	0.70
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

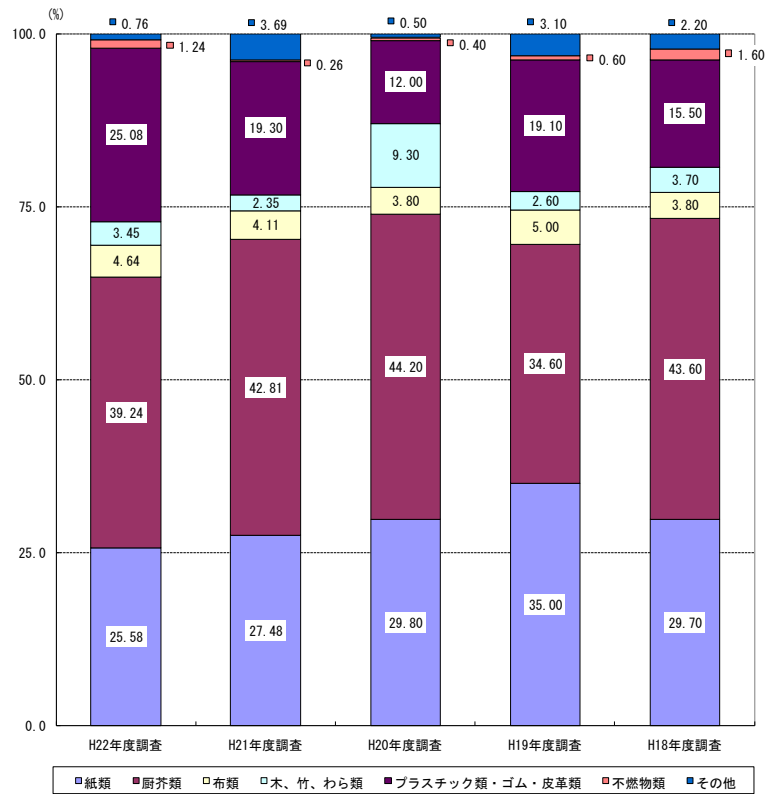


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部：可燃ごみ）

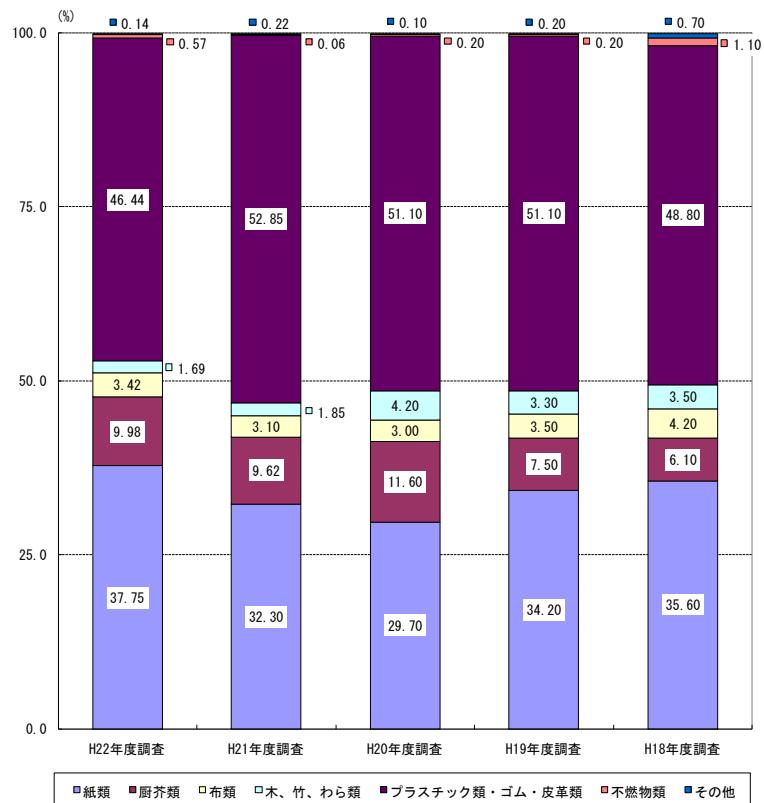


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部：可燃ごみ）

(3) 東部

今回実施した東部の可燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-5 に示した。

東部の重量比で 10%以上の組成項目は「紙類」(23.3%)、「厨芥類」(41.1%)、「プラスチック, ゴム, 皮革類」(23.2%)の3種であり、全体の約 87.6%を占めていた。個別にみると、「紙類」では雑紙(4.0%)、新聞紙・チラシ(2.4%)、リサイクルできない紙(15.6%)が、「厨芥類」では食品類(38.7%)が、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋(1.9%)、その他のプラ製容器包装(15.3%)、容器包装以外のプラスチック類(3.9%)の構成割合が高くなっている状況であった。

次に、東部の容積比で 10%以上の組成項目は「紙類」(28.9%)、「プラスチック, ゴム, 皮革類」(49.1%)、「厨芥類」(11.4%)の3種であり、全体の約 89.4%を占めていた。個別にみると、「紙類」では雑紙(6.7%)、新聞紙・チラシ(4.4%)、飲料用紙パック(アルミ不使用)(2.5%)、リサイクルできない紙(15.1%)が、「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋(5.0%)、発泡トレイ(3.3%)、その他のプラ製容器包装(32.5%)、容器包装以外のプラスチック類(3.8%)の構成割合が高くなっている状況であった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様に「厨芥類」では重量比が高く容積比が低い状況となっており、「紙類」、「プラスチック, ゴム, 皮革類」では重量比が低く容積比が高い状況が確認された(図 2-7 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-6 及び図 2-8~9 に示した。

表2-5 大分類組成調査結果 1 (東部:可燃ごみ)

項目	東部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	45.90	0.5190	23.33	28.86	0.088
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-	1.40	0.0450	0.71	2.51	0.031
500m ² 以上	1	1.08	0.0350	0.55	1.95	0.031
500m ² 未満	2	0.32	0.0100	0.16	0.56	0.032
ダンボール	3	0.37	0.0010	0.19	0.06	0.370
新聞紙・チラシ	-	4.63	0.0790	2.35	4.39	0.059
新聞紙	4	0.65	0.0010	0.33	0.06	0.650
再利用した新聞紙	5	1.96	0.0500	1.00	2.78	0.039
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	2.02	0.0280	1.03	1.56	0.072
書籍・雑誌類	6	1.01	0.0020	0.51	0.11	0.505
雑紙	-	7.83	0.1200	3.98	6.67	0.065
紙箱類	9	2.88	0.0700	1.46	3.89	0.041
紙包装類	10	0.66	0.0180	0.34	1.00	0.037
OA用紙	11	0.36	0.0030	0.18	0.17	0.120
シュレッダーくず	12	1.36	0.0150	0.69	0.83	0.091
その他雑紙	13	2.57	0.0140	1.31	0.78	0.184
リサイクルできない紙	-	30.66	0.2720	15.59	15.12	0.113
紙おむつ以外	14	16.60	0.1900	8.44	10.56	0.087
紙おむつ	15	14.06	0.0820	7.15	4.56	0.171
厨芥類	-	80.92	0.2050	41.14	11.39	0.395
食品類	-	76.01	0.1850	38.65	10.28	0.411
手付かずの食品	16	7.69	0.0200	3.91	1.11	0.385
調理くず等	17	68.32	0.1650	34.74	9.17	0.414
食品以外	18	4.91	0.0200	2.50	1.11	0.246
布類	-	3.48	0.0450	1.77	2.50	0.077
リサイクル可能	19	1.32	0.0200	0.67	1.11	0.066
リサイクル不可	20	2.16	0.0250	1.10	1.39	0.086
木、竹、わら類	-	19.20	0.1420	9.76	7.89	0.135
剪定枝	21	1.35	0.0100	0.69	0.56	0.135
草	22	16.76	0.1320	8.52	7.34	0.127
その他	23	1.09	0.0150	0.55	0.83	0.073
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	45.61	0.8830	23.19	49.07	0.052
ペットボトル	-	1.12	0.0420	0.57	2.33	0.027
リサイクルできるペットボトル	24	0.90	0.0320	0.46	1.78	0.028
リサイクルできないペットボトル	25	0.22	0.0100	0.11	0.56	0.022
レジ袋	-	3.75	0.0900	1.91	5.00	0.042
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	3.75	0.0900	1.91	5.00	0.042
発泡トレイ	-	0.55	0.0600	0.28	3.33	0.009
リサイクルできる発泡トレイ	28					
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.55	0.0600	0.28	3.33	0.009
その他のプラ製容器包装	-	30.09	0.5840	15.30	32.46	0.052
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	1.31	0.0200	0.67	1.11	0.066
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	28.78	0.5640	14.63	31.34	0.051
容器包装以外のプラスチック類	32	7.61	0.0690	3.87	3.83	0.110
有料指定袋	33	1.65	0.0300	0.84	1.67	0.055
ゴム・皮革類	34	0.84	0.0080	0.43	0.44	0.105

表2-5 大分類組成調査結果 2 (東部:可燃ごみ)

項目	東部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量 (kg)	容積 (m3)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	0.84	0.0034	0.43	0.19	0.247
金属類	-	0.07	0.0012	0.04	0.07	0.058
スチール缶	35					
汚れたスチール缶	36	0.03	0.0002	0.02	0.01	0.150
アルミ缶	37	0.04	0.0010	0.02	0.06	0.040
汚れたアルミ缶	38					
その他金属類	39					
ガラス類	-	0.32	0.0002	0.16	0.01	1.600
リターナブルびん	40					
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42					
汚れたワンウェイびん	43	0.32	0.0002	0.16	0.01	1.600
その他ガラス類	44	0.00	0.0000	0.00	0.00	
その他	-	0.77	0.0022	0.39	0.12	0.350
陶磁器類	45	0.14	0.0001	0.07	0.01	1.400
複合素材	46	0.56	0.0020	0.28	0.11	0.280
医療系	47					
乾電池、体温計(水銀入)	48	0.07	0.0001	0.04	0.01	0.700
蛍光灯	48					
選別残渣	50	0.73	0.0020	0.37	0.11	0.365
総合計	-	196.68	1.80	100.0	100.0	

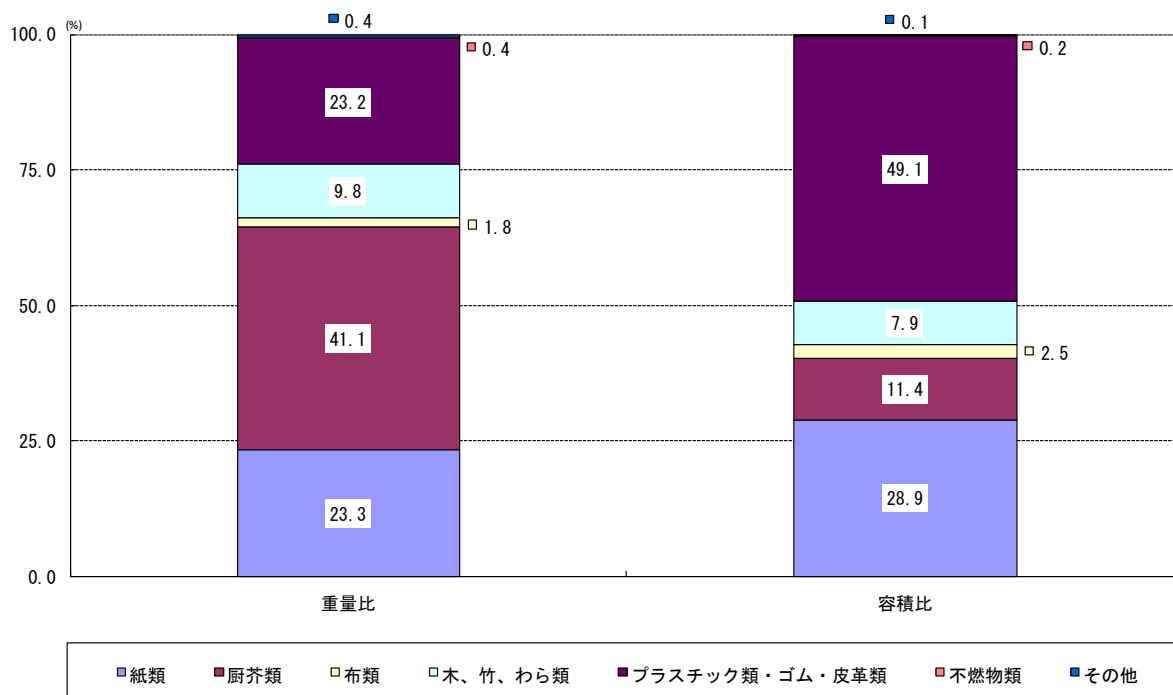


図2-7 大分類組成調査結果 (東部:可燃ごみ)

表2-6 大分類組成調査結果の比較（東部：可燃ごみ）

分類	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	23.33	23.67	25.10	31.80	25.80	28.86	44.58	28.30	26.70	40.40
厨芥類	41.14	42.01	44.93	32.10	33.20	11.39	7.19	14.70	10.30	6.00
布類	1.77	3.97	2.95	4.60	5.20	2.50	3.00	2.30	1.80	5.20
木、竹、わら類	9.76	11.46	12.26	16.50	8.30	7.89	5.25	11.60	11.70	3.40
プラスチック類・ ゴム・皮革類	23.19	16.64	9.64	12.80	19.70	49.07	39.44	40.20	48.80	43.70
不燃物類	0.43	0.65	0.55	0.60	3.40	0.19	0.31	0.50	0.30	0.40
その他	0.37	1.60	4.57	1.60	4.40	0.11	0.22	2.50	0.40	1.00
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

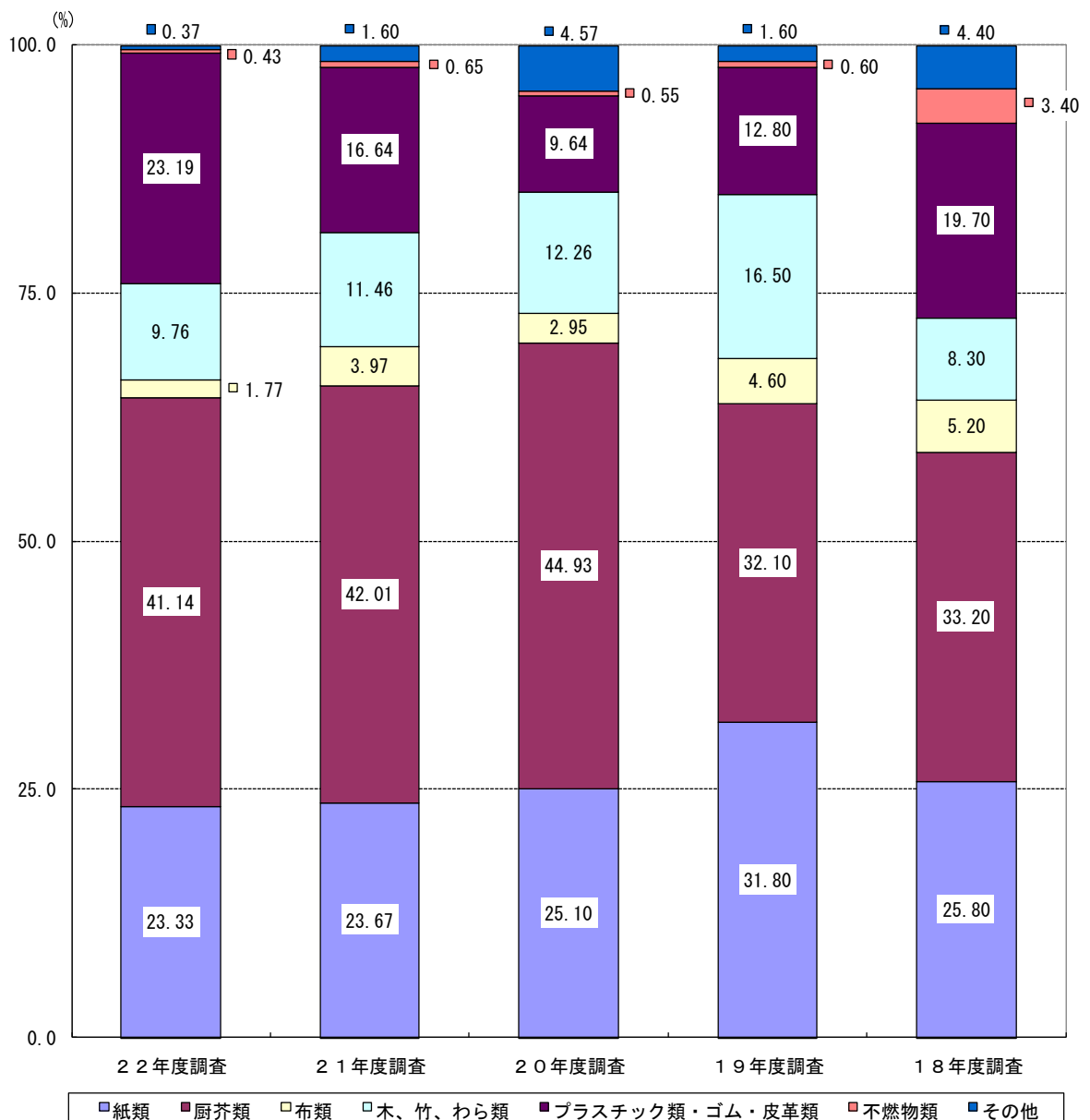


図2-8 重量比の大分類組成調査結果の比較（東部：可燃ごみ）

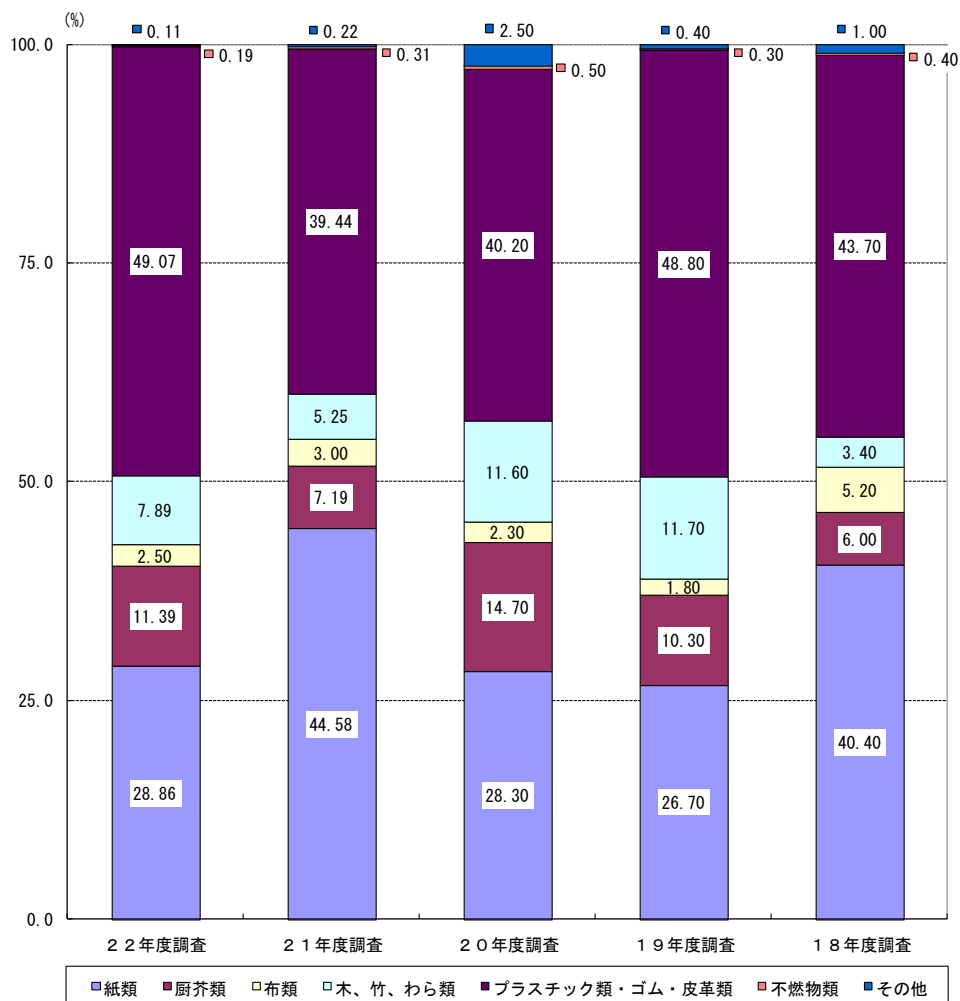


図2-9 容積比の大分類組成調査結果の比較（東部：可燃ごみ）

（４）可燃ごみの排出特性の総括

平成18～22年度の本市全域、西部、東部の構成比を比較した結果を図2-10～11に示した。

全体的な傾向として、今回の調査結果は、平成21年度の調査地域とほぼ同じ地域の可燃ごみを調査しているため、構成比もこれと類似する結果となっていた。個別の構成比としては、プラスチック、ゴム、皮革類の構成比が高くなっている点や、その他の構成比が低くなっている点が特徴であった。今後も継続した調査を行い啓発効果が表れているか否かを評価していく必要がある。

「木、竹、わら類」については、比較的一戸建てが多い東部と集合住宅地が多い西部で排出特性が異なっており、特に東部の構成比が高くなっていた。本傾向については、これまでの平成18～21年度の調査結果と同様であったことから、こうした特徴はほぼ確実なものと推察された。

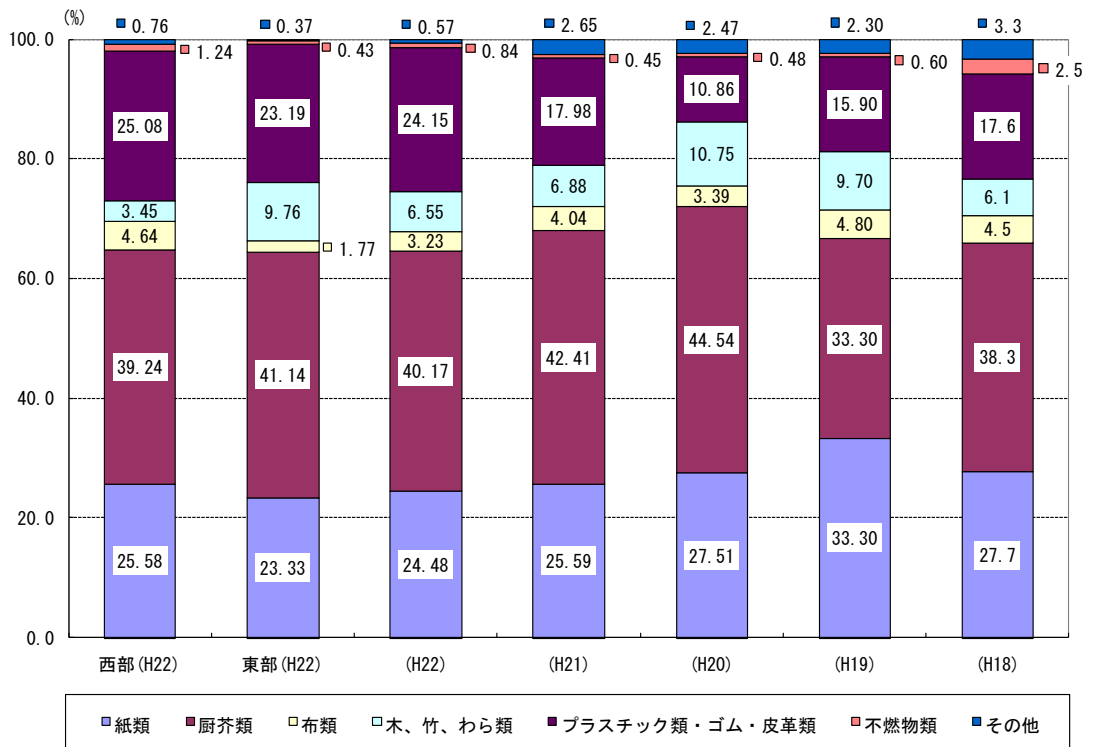


図2-10 大分類組成調査の比較（可燃ごみ：重量比）

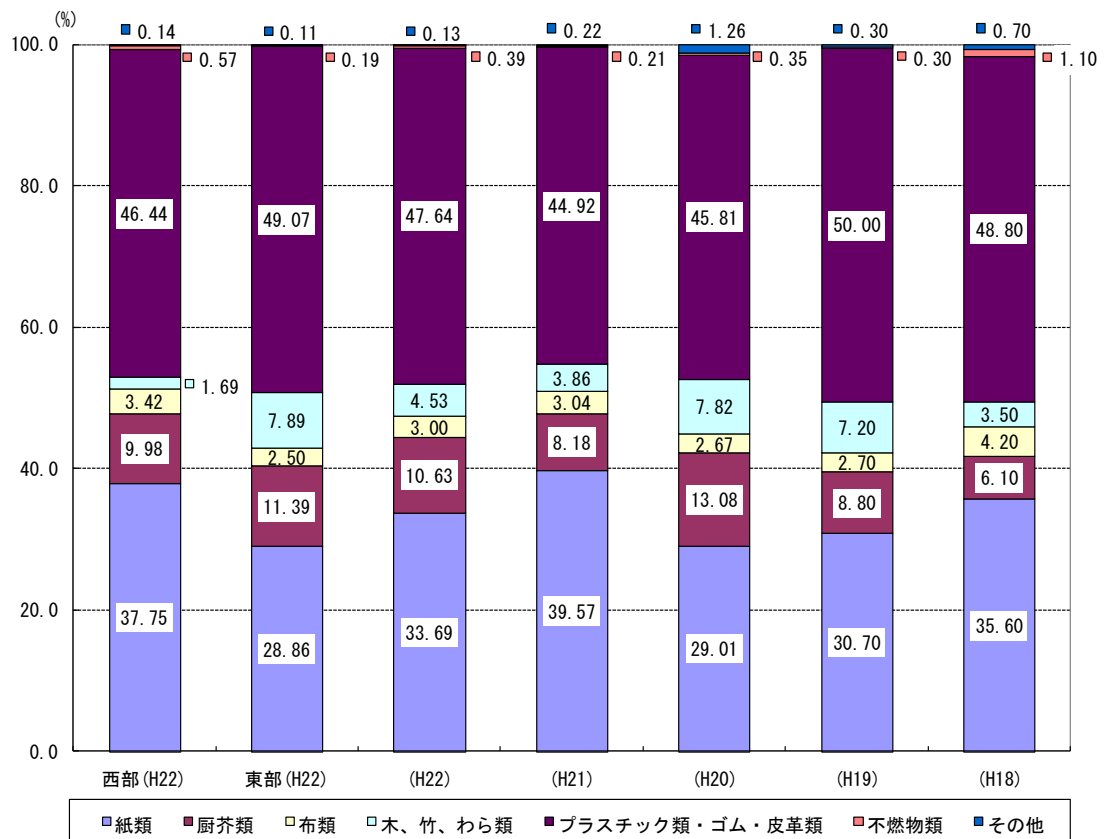


図2-11 大分類組成調査の比較（可燃ごみ：容積比）

2 不燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。

本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック, ゴム, 皮革類」(11.0%)、「不燃物類」(85.4%)の 2 種であり、全体の約 96.4%を占めていた。個別にみると「プラスチック, ゴム, 皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(7.6%)が、その他のプラ製容器包装(1.9%)、「不燃物類」では金属類(18.2%)、ガラス類(24.9%)、陶磁器類(9.8%)、複合素材(31.6%)の構成割合が高くなっている状況であった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック, ゴム, 皮革類」(24.4%)、「不燃物類」(70.0%)の 2 種類であり、全体の約 94.4%を占めていた。個別にみると特に「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋(2.3%)、その他のプラ製容器包装(5.4%)、容器包装以外のプラスチック類(13.7%)、有料指定袋(2.2%)が、「不燃物類」では重量比と同様に、金属類(25.4%)、その他(36.5%)、ガラス類(8.1%)の構成割合が高くなっている状況であった。

重量比と容積比を比較すると、「プラスチック, ゴム, 皮革類」では重量比が低く容積比が高く、「不燃物類」でも重量比が高く容積比が低い状況が確認された(図 2-13)。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-8、図 2-14~15 に示した。

その結果、平成 21 年度の調査結果と類似していた。これまでの構成比の特徴と比較した場合、「プラスチック, ゴム, 皮革類」の「容器包装以外のプラスチック類」が減少傾向となっていることが確認された。

表2-7 大分類組成調査結果 1 (本市全域:不燃ごみ)

項目	全 域 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	2.89	0.098	0.72	4.41	0.029
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-					
500m/以上	1					
500m/未満	2					
ダンボール	3	0.11	0.003	0.03	0.13	0.036
新聞紙・チラシ	-	1.50	0.062	0.37	2.79	0.024
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.17	0.049	0.29	2.20	0.024
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.33	0.013	0.08	0.58	0.025
書籍・雑誌類	6					
雑紙	-	0.97	0.020	0.24	0.90	0.049
紙箱類	9	0.40	0.007	0.10	0.31	0.057
紙包装類	10	0.53	0.012	0.13	0.54	0.044
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他雑紙	13	0.04	0.001	0.01	0.04	0.040
リサイクルできない紙	-	0.31	0.013	0.08	0.58	0.024
紙おむつ以外	14	0.31	0.013	0.08	0.58	0.024
紙おむつ	15					
厨芥類	-	7.22	0.012	1.79	0.54	0.602
食品類	-	7.22	0.012	1.79	0.54	0.602
手付かずの食品	16	7.22	0.012	1.79	0.54	0.602
調理くず等	17					
食品以外	18					
布類	-	0.95	0.007	0.24	0.29	0.146
リサイクル可能	19	0.12	0.001	0.03	0.04	0.120
リサイクル不可	20	0.83	0.006	0.21	0.25	0.151
木、竹、わら類	-	0.35	0.003	0.09	0.11	0.140
剪定枝	21					
草	22					
その他	23	0.35	0.003	0.09	0.11	0.140
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	44.44	0.542	11.02	24.37	0.082
ペットボトル	-	0.09	0.001	0.02	0.04	0.090
リサイクルできるペットボトル	24	0.04	0.001	0.01	0.02	0.080
リサイクルできないペットボトル	25	0.05	0.001	0.01	0.02	0.100
レジ袋	-	1.67	0.050	0.41	2.25	0.033
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	1.67	0.050	0.41	2.25	0.033
発泡トレイ	-	0.03	0.003	0.01	0.13	0.010
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.03	0.003	0.01	0.13	0.010
リサイクルできない発泡トレイ	29					
その他のプラ製容器包装	-	7.75	0.120	1.92	5.40	0.065
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	1.09	0.042	0.27	1.89	0.026
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	6.66	0.078	1.65	3.51	0.085
容器包装以外のプラスチック類	32	30.61	0.305	7.59	13.71	0.100
有料指定袋	33	2.14	0.048	0.53	2.16	0.045
ゴム・皮革類	34	2.15	0.015	0.53	0.67	0.143

表2-7 大分類組成調査結果 2 (本市全域:不燃ごみ)

項目	全域 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	344.48	1.557	85.44	70.01	0.221
金属類	-	73.22	0.565	18.16	25.40	0.130
スチール缶	35	9.82	0.110	2.44	4.95	0.089
汚れたスチール缶	36	16.30	0.170	4.04	7.64	0.096
アルミ缶	37	1.28	0.037	0.32	1.66	0.035
汚れたアルミ缶	38					
その他金属類	39	45.82	0.248	11.36	11.15	0.185
ガラス類	-	100.30	0.181	24.88	8.14	0.554
リターナブルびん	40	2.10	0.005	0.52	0.22	0.420
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42	4.61	0.020	1.14	0.90	0.231
汚れたワンウェイびん	43	56.60	0.213	14.04	9.58	0.266
その他ガラス類	44	36.99	0.091	9.17	4.09	0.406
その他	-	170.96	0.811	42.40	36.47	0.211
陶磁器類	45	39.63	0.098	9.83	4.41	0.404
複合素材	46	127.20	0.698	31.55	31.38	0.182
医療系	47	0.08	0.000	0.02	0.00	0.800
乾電池、体温計(水銀入)	48	2.29	0.002	0.57	0.09	1.145
蛍光灯	48	1.76	0.013	0.44	0.58	0.135
選別残渣	50	2.85	0.006	0.71	0.27	0.475
総合計	-	403.18	2.22	100.0	100.0	

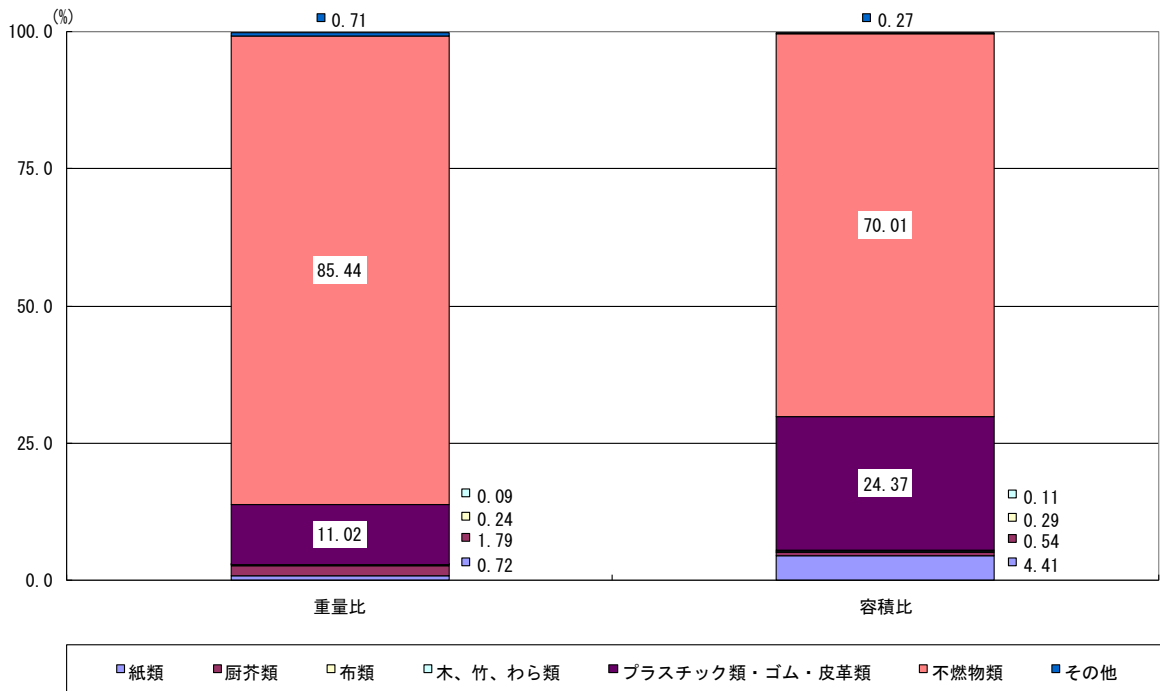


図2-12 大分類組成調査結果 (本市全域:不燃ごみ)

表 2-8 大分類組成調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

項目 分類	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	0.72	0.62	0.51	4.00	3.00	4.41	3.37	2.74	7.50	3.90
厨芥類	1.79	2.19	0.15	0.00	0.10	0.54	0.46	0.01	0.00	0.00
布類	0.24	0.75	0.00	0.30	0.80	0.29	1.09	0.00	0.20	0.30
木、竹、わら類	0.09	0.73	0.58	0.20	0.40	0.11	1.16	0.18	0.20	0.50
プラスチック類・ ゴム・皮革類	11.02	13.60	12.48	10.70	20.80	24.37	27.97	32.74	32.00	45.80
不燃物類	85.44	79.49	83.88	83.40	74.10	70.01	65.11	63.81	59.60	49.40
その他	0.71	2.62	2.40	1.30	0.80	0.27	0.84	0.52	0.60	0.10
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

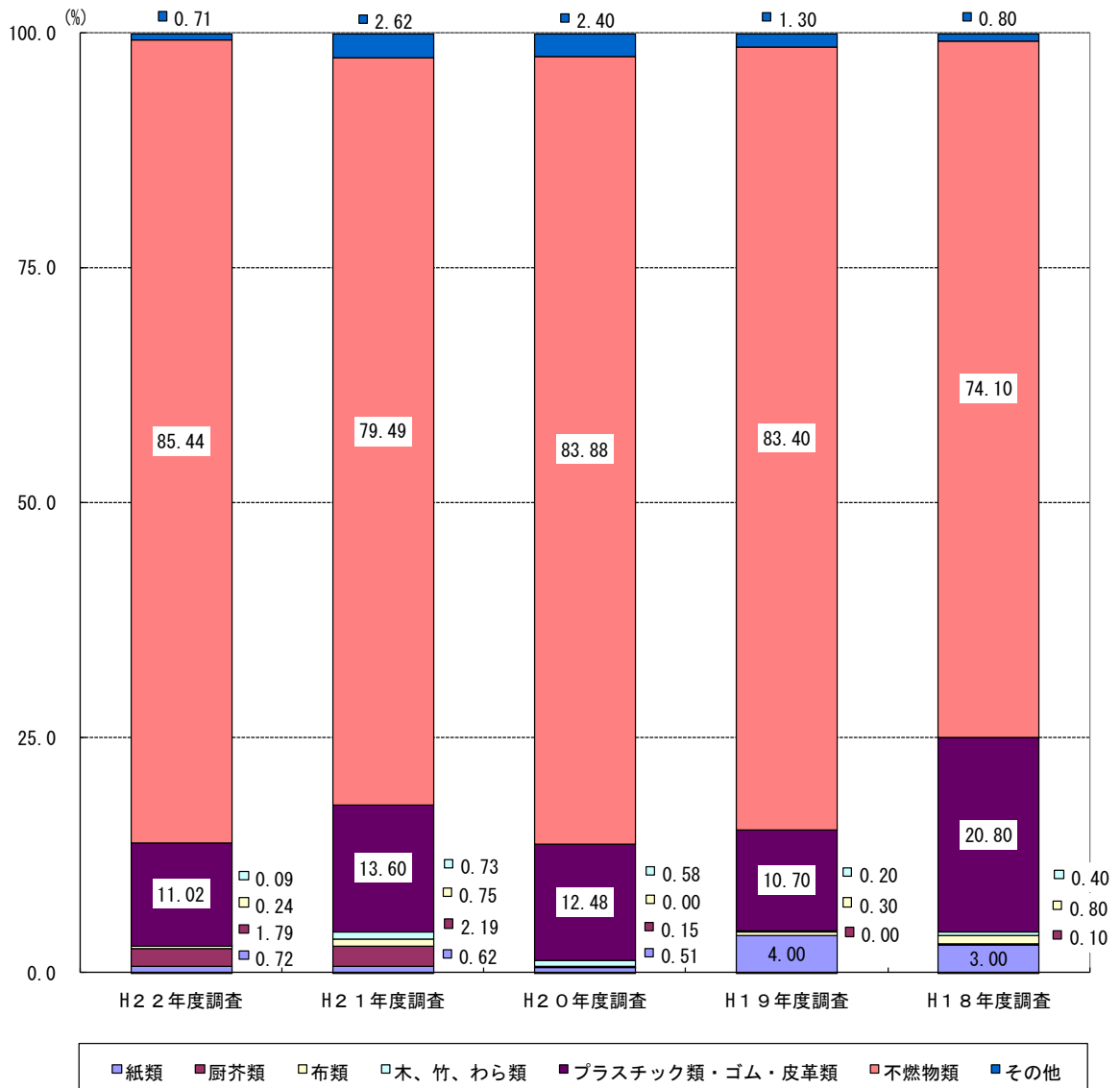


図2-13 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

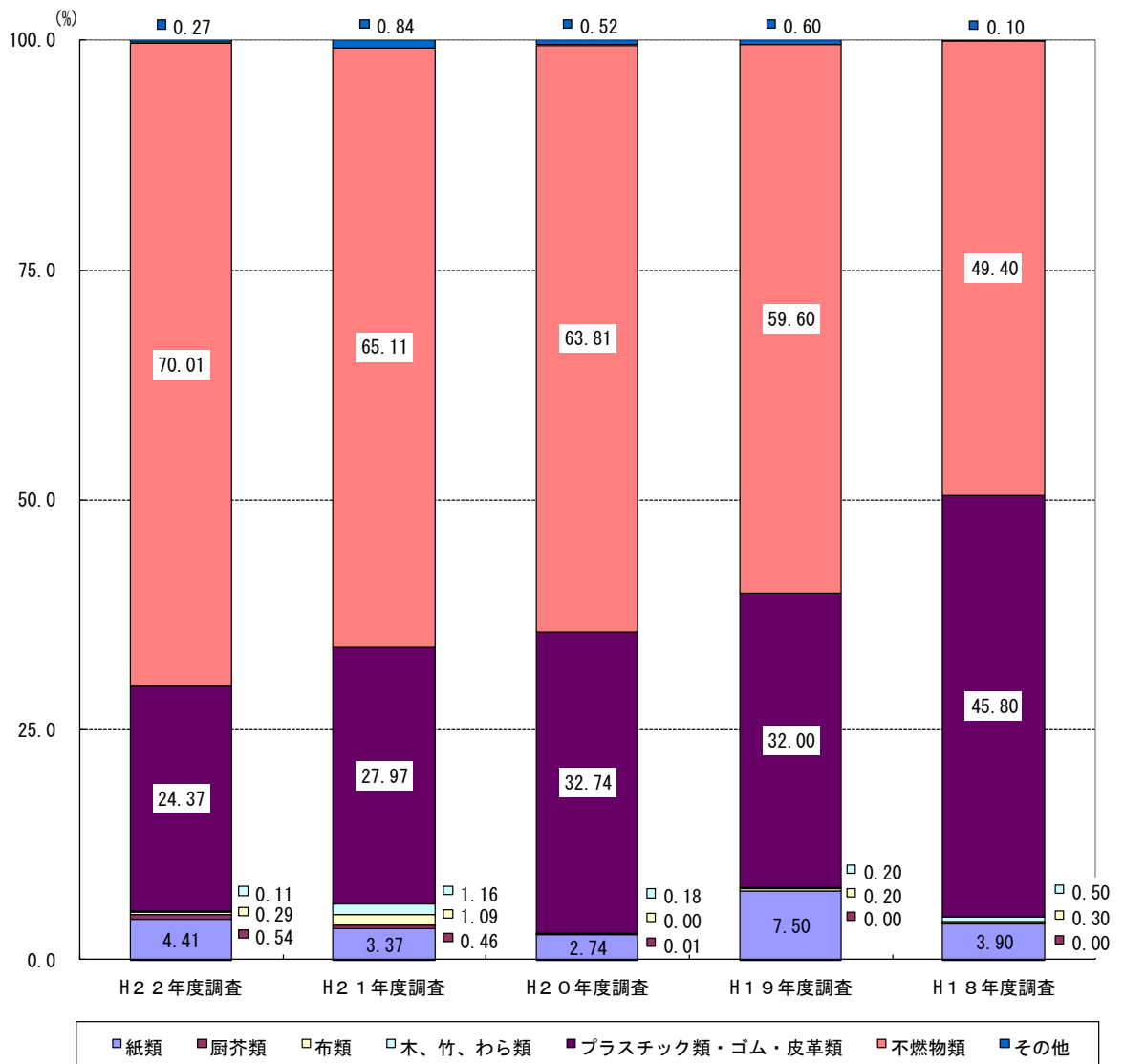


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

(2) 西部

今回実施した西部の不燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-9 に示した。

西部の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック, ゴム, 皮革類」(12.1%)、「不燃物類」(85.9%)の 2 種で、全体の約 98.0%を占めていた。個別にみると、「プラスチック, ゴム, 皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(9.8%)が、「不燃物類」では金属類(18.4%)、ガラス類(17.3%)、陶磁器類(12.5%)、複合素材(37.0%)の構成割合が高くなっている状況であった。

次に西部の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は重量比と同様に「プラスチック, ゴム, 皮革類」(24.1%)、「不燃物類」(71.0%)の 2 種類であり、全体の約 95.1%を占めていた。個別にみると「プラスチック, ゴム, 皮革類」ではレジ袋(1.7%)、容器包装以外のプラスチック類(15.4%)、その他のプラ製容器包装(4.2%)、有料指定袋(1.7%)が、「不燃物類」では金属類(23.7%)、陶磁器類(4.8%)複合素材(32.1%)の構成割合が高くなっている状況であった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様に「プラスチック, ゴム, 皮革類」では重量比が低く容積比が高い状況となっており、「不燃物類」では重量比が高く容積比が低い状況が確認された(図 2-15 参照)。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-10、図 2-16~17 に示した。

結果として、西部においては、本年度を含めて 5 ヶ年の推移を見ると、調査対象地域の違いによる類似傾向は確認されず、「プラスチック, ゴム, 皮革類」は減少傾向、「不燃物類」においては、増加傾向にあることが確認された。

表2-9 大分類組成調査結果 1 (西部:不燃ごみ)

項目	西部(不燃ごみ)					
	重量・容積			重量・容積		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見掛け比重	
紙類	-	1.34	0.053	0.68	4.39	0.025
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-					
500m/以上	1					
500m/未満	2					
ダンボール	3	0.03	0.001	0.02	0.08	0.033
新聞紙・チラシ	-	0.94	0.036	0.47	2.99	0.026
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.72	0.028	0.36	2.33	0.026
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.22	0.008	0.11	0.66	0.028
書籍・雑誌類	6					
雑紙	-	0.27	0.008	0.14	0.66	0.034
紙箱類	9	0.15	0.005	0.08	0.42	0.030
紙包装類	10	0.08	0.002	0.04	0.17	0.040
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他雑紙	13	0.04	0.001	0.02	0.08	0.040
リサイクルできない紙	-	0.10	0.008	0.05	0.66	0.013
紙おむつ以外	14	0.10	0.008	0.05	0.66	0.013
紙おむつ	15					
厨芥類	-	1.17	0.002	0.59	0.17	0.585
食品類	-	1.17	0.002	0.59	0.17	0.585
手付かずの食品	16	1.17	0.002	0.59	0.17	0.585
調理くず等	17					
食品以外	18					
布類	-	0.06	0.001	0.03	0.04	0.120
リサイクル可能	19					
リサイクル不可	20	0.06	0.001	0.03	0.04	0.120
木、竹、わら類	-	0.20	0.002	0.10	0.17	0.100
剪定枝	21					
草	22					
その他	23	0.20	0.002	0.10	0.17	0.100
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	24.07	0.290	12.13	24.09	0.083
ペットボトル	-	0.09	0.001	0.05	0.08	0.090
リサイクルできるペットボトル	24	0.04	0.001	0.02	0.04	0.080
リサイクルできないペットボトル	25	0.05	0.001	0.03	0.04	0.100
レジ袋	-	0.90	0.020	0.45	1.66	0.045
リサイクルできるレジ袋	26					
リサイクルできないレジ袋	27	0.90	0.020	0.45	1.66	0.045
発泡トレイ	-	0.03	0.003	0.02	0.25	0.010
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.03	0.003	0.02	0.25	0.010
リサイクルできない発泡トレイ	29					
その他のプラ製容器包装	-	1.45	0.050	0.73	4.15	0.029
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	0.09	0.020	0.05	1.66	0.005
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	1.36	0.030	0.69	2.49	0.045
容器包装以外のプラスチック類	32	19.40	0.185	9.78	15.37	0.105
有料指定袋	33	0.80	0.020	0.40	1.66	0.040
ゴム・皮革類	34	1.40	0.011	0.71	0.91	0.127

表2-9 大分類組成調査結果 2 (西部:不燃ごみ)

項目	西部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量 (kg)	容積 (m ³)	重量比 (%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	170.31	0.854	85.86	70.96	0.199
金属類	-	36.55	0.285	18.43	23.68	0.128
スチール缶	35	3.46	0.040	1.74	3.32	0.087
汚れたスチール缶	36	8.04	0.100	4.05	8.31	0.080
アルミ缶	37	0.45	0.012	0.23	1.00	0.038
汚れたアルミ缶	38					
その他金属類	39	24.60	0.133	12.40	11.05	0.185
ガラス類	-	34.25	0.121	17.27	10.05	0.283
リターナブルびん	40	2.10	0.005	1.06	0.42	0.420
汚れたリターナブルびん	41					
ワンウェイびん	42					
汚れたワンウェイびん	43	19.16	0.085	9.66	7.06	0.225
その他ガラス類	44	12.99	0.031	6.55	2.58	0.419
その他	-	99.51	0.448	50.17	37.23	0.222
陶磁器類	45	24.75	0.058	12.48	4.82	0.427
複合素材	46	73.36	0.386	36.98	32.07	0.190
医療系	47	0.08	0.000	0.04	0.01	0.800
乾電池、体温計(水銀入)	48	0.86	0.001	0.43	0.08	0.860
蛍光灯	48	0.46	0.003	0.23	0.25	0.153
選別残渣	50	1.20	0.002	0.60	0.17	0.600
総合計	-	198.35	1.20	100.0	100.0	

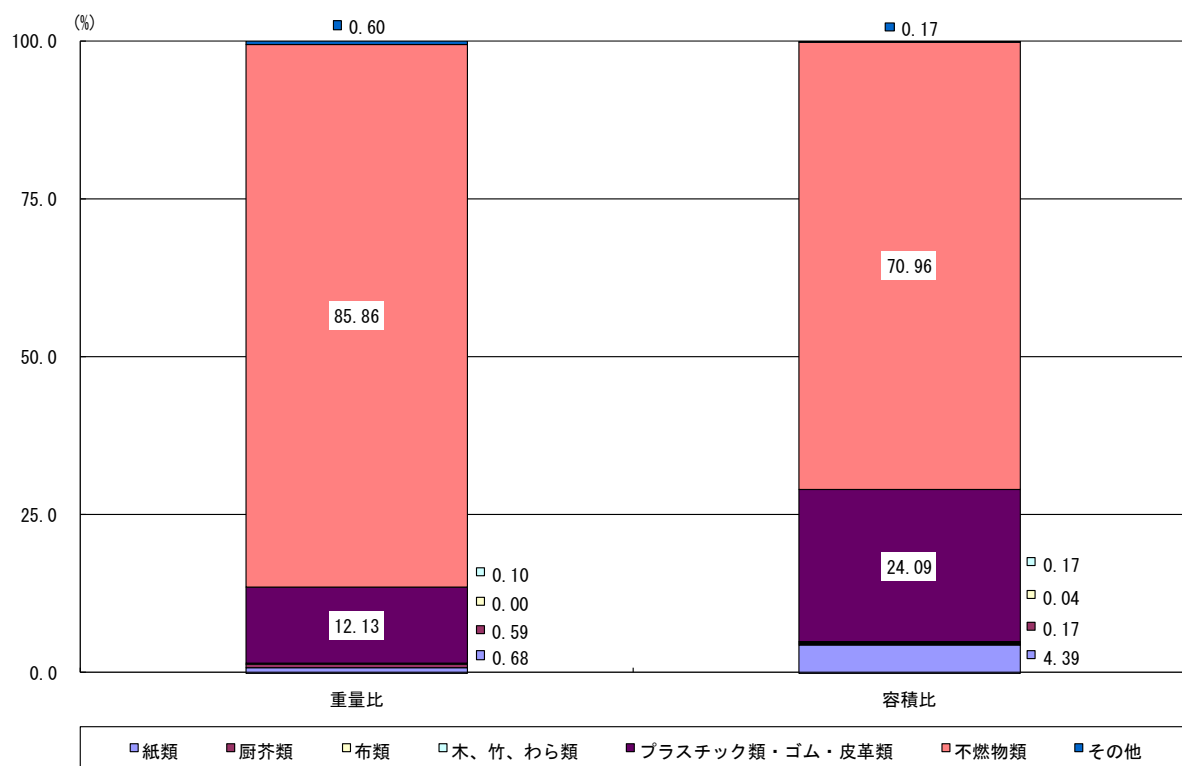


図2-15 大分類組成調査結果 (西部:不燃ごみ)

表2-10 大分類組成調査結果の比較（西部：不燃ごみ）

項目	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	0.68	0.92	0.60	3.20	4.90	4.39	4.09	0.20	6.00	4.10
厨芥類	0.59	4.13	0.00	0.00	0.00	0.17	0.82	0.00	0.00	0.00
布類	0.00	1.47	0.01	0.01	0.10	0.04	2.10	0.00	0.04	0.20
木、竹、わら類	0.10	0.67	1.10	0.10	1.40	0.17	0.46	0.30	0.04	1.10
プラスチック類・ゴム・皮革類	12.13	14.65	19.10	11.90	15.60	24.09	27.59	44.40	33.20	39.80
不燃物類	85.86	76.10	77.80	83.40	76.80	70.96	64.17	54.60	60.50	54.60
その他	0.60	2.08	1.50	1.50	1.20	0.17	0.73	0.50	0.20	0.20
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

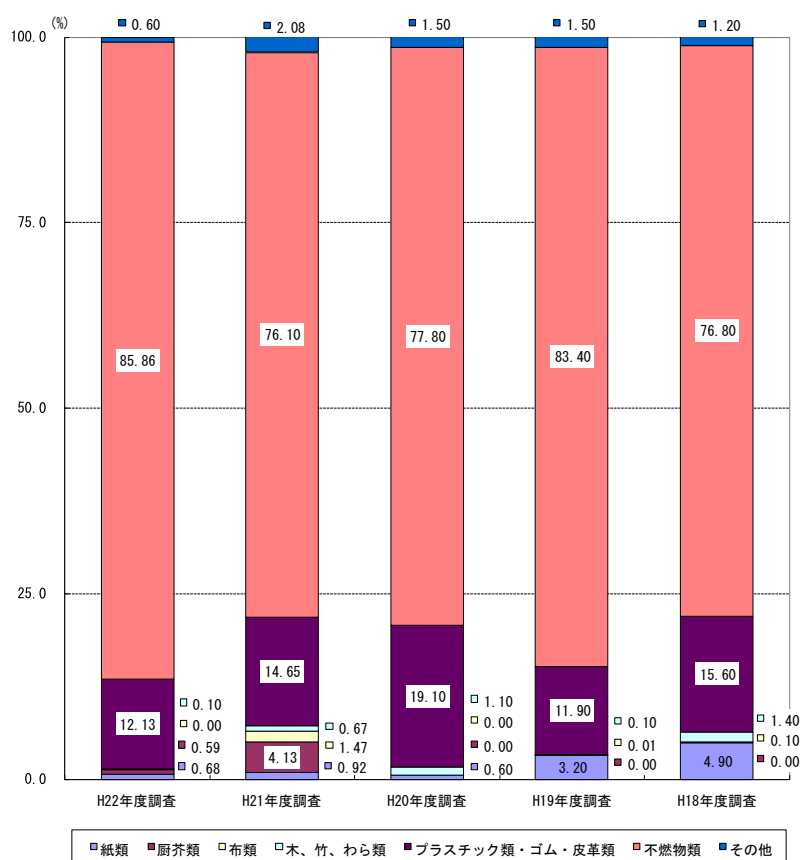


図2-16 重量比の大分類組成調査結果の比較（西部：不燃ごみ）

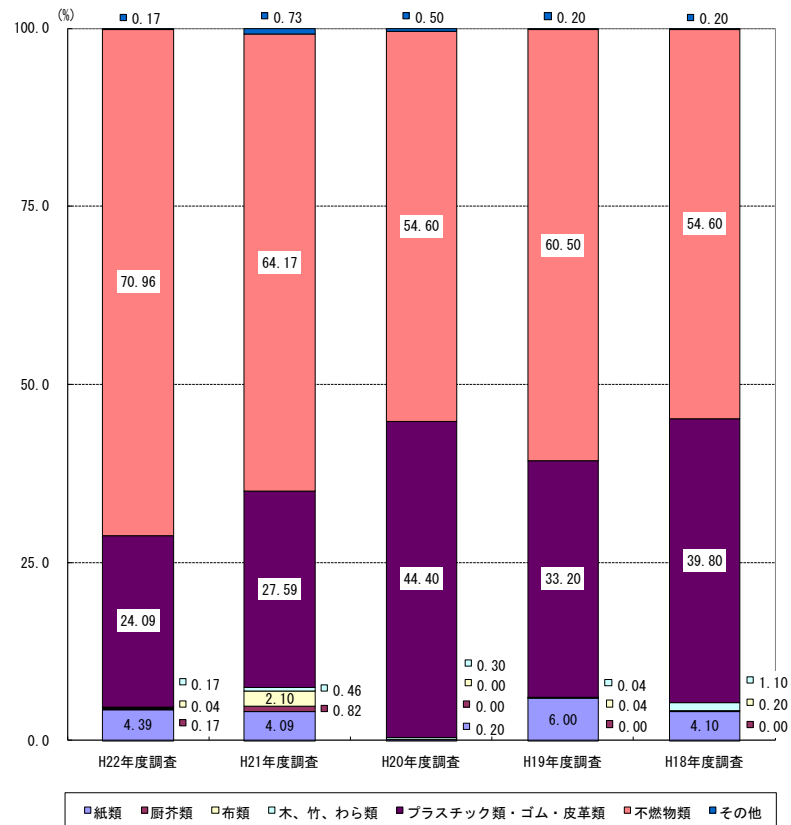


図2-17 容積比の大分類組成調査結果の比較（西部：不燃ごみ）

（3）東部

今回実施した東部の不燃ごみの組成分析調査の大分類の結果を表 2-11 に示した。

東部の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」（85.0%）の 1 種類であり、全体の約 85.0%を占めていた。

「不燃物類」では金属類（17.9%）、ガラス類（32.3%）、陶磁器類（7.3%）、複合素材（26.3%）の構成割合が高くなっていった。

次に東部の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック、ゴム、皮革類」（24.7%）、「不燃物類」（68.9%）の 2 種類であり、全体の約 93.6%を占めていた。

個別にみると特に「プラスチック、ゴム、皮革類」ではレジ袋（2.9%）、その他のプラ製容器包装（6.9%）、容器包装以外のプラスチック類（11.8%）、有料指定袋（2.7%）が、「不燃物類」では金属類（27.4%）、ガラス類（5.9%）、陶磁器類（3.9%）、複合素材（30.6%）の構成割合が高くなっていった。

重量比と容積比を比較すると、本市全域と同様に「プラスチック、ゴム、皮革類」では重量比が低く容積比が高い状況となっており、「不燃物類」では重量比が高く容積比が低い状況が確認された（図 2-18 参照）。

次に、経年的な組成分析調査の結果を表 2-12、図 2-19～20 に示した。

結果として、東部においては、本年度を含めて 5 カ年の推移を見ると、可燃ごみ同様に調査対象地域の違いによる類似傾向は確認されなかった。

表2-11 大分類組成調査結果 1 (東部:不燃ごみ)

項目	東 部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
紙類	-	1.55	0.045	0.75	4.42	0.034
飲料用紙パック (アルミ不使用)	-	0.00	0.000	0.00	0.00	
500mℓ以上	1	0.00	0.000	0.00	0.00	
500mℓ未満	2	0.00	0.000	0.00	0.00	
ダンボール	3	0.08	0.002	0.04	0.20	0.038
新聞紙・チラシ	-	0.56	0.026	0.27	2.55	0.022
新聞紙	4	0.00	0.000	0.00	0.00	
再利用した新聞紙	5	0.45	0.021	0.22	2.06	0.021
チラシ	6	0.00	0.000	0.00	0.00	
再利用したチラシ	7	0.11	0.005	0.05	0.49	0.022
書籍・雑誌類	6	0.00	0.000	0.00	0.00	
雑紙	-	0.70	0.012	0.34	1.18	0.058
紙箱類	9	0.25	0.002	0.12	0.20	0.125
紙包装類	10	0.45	0.010	0.22	0.98	0.045
OA用紙	11	0.00	0.000	0.00	0.00	
シュレッダーくず	12	0.00	0.000	0.00	0.00	
その他雑紙	13	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできない紙	-	0.21	0.005	0.10	0.49	0.042
紙おむつ以外	14	0.21	0.005	0.10	0.49	0.042
紙おむつ	15	0.00	0.000	0.00	0.00	
厨芥類	-	6.05	0.010	2.95	0.98	0.605
食品類	-	6.05	0.010	2.95	0.98	0.605
手付かずの食品	16	6.05	0.010	2.95	0.98	0.605
調理くず等	17	0.00	0.000	0.00	0.00	
食品以外	18	0.00	0.000	0.00	0.00	
布類	-	0.89	0.006	0.43	0.59	0.148
リサイクル可能	19	0.12	0.001	0.06	0.10	0.120
リサイクル不可	20	0.77	0.005	0.38	0.49	0.154
木、竹、わら類	-	0.15	0.001	0.07	0.05	0.300
剪定枝	21	0.00	0.000	0.00	0.00	
草	22	0.00	0.000	0.00	0.00	
その他	23	0.15	0.001	0.07	0.05	0.300
プラスチック類・ゴム・皮革類	-	20.37	0.252	9.95	24.69	0.081
ペットボトル	-	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできるペットボトル	24	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできないペットボトル	25	0.00	0.000	0.00	0.00	
レジ袋	-	0.77	0.030	0.38	2.94	0.026
リサイクルできるレジ袋	26	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできないレジ袋	27	0.77	0.030	0.38	2.94	0.026
発泡トレイ	-	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできる発泡トレイ	28	0.00	0.000	0.00	0.00	
リサイクルできない発泡トレイ	29	0.00	0.000	0.00	0.00	
その他のプラ製容器包装	-	6.30	0.070	3.08	6.86	0.090
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	30	1.00	0.022	0.49	2.16	0.045
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	31	5.30	0.048	2.59	4.70	0.110
容器包装以外のプラスチック類	32	11.21	0.120	5.47	11.76	0.093
有料指定袋	33	1.34	0.028	0.65	2.74	0.048
ゴム・皮革類	34	0.75	0.004	0.37	0.39	0.188

表2-11 大分類組成調査結果 2 (東部:不燃ごみ)

項目	東 部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量・容積			
	重量(kg)	容積 (m ³)	重量比(%)	容積比 (%)	見掛け比重	
不燃物類	-	174.17	0.703	85.03	68.89	0.248
金属類	-	36.67	0.280	17.90	27.44	0.131
スチール缶	35	6.36	0.070	3.11	6.86	0.091
汚れたスチール缶	36	8.26	0.070	4.03	6.86	0.118
アルミ缶	37	0.83	0.025	0.41	2.45	0.033
汚れたアルミ缶	38	0.00	0.000	0.00	0.00	
その他金属類	39	21.22	0.115	10.36	11.27	0.185
ガラス類	-	66.05	0.060	32.25	5.88	1.101
リターナブルびん	40	0.00	0.000	0.00	0.00	
汚れたリターナブルびん	41	0.00	0.000	0.00	0.00	
ワンウェイびん	42	4.61	0.020	2.25	1.96	0.231
汚れたワンウェイびん	43	37.44	0.128	18.28	12.54	0.293
その他ガラス類	44	24.00	0.060	11.72	5.88	0.400
その他	-	71.45	0.363	34.88	35.57	0.197
陶磁器類	45	14.88	0.040	7.26	3.92	0.372
複合素材	46	53.84	0.312	26.29	30.57	0.173
医療系	47	0.00	0.000	0.00	0.00	
乾電池、体温計(水銀入)	48	1.43	0.001	0.70	0.10	1.430
蛍光灯	48	1.30	0.010	0.63	0.98	0.130
選別残渣	50	1.65	0.004	0.81	0.39	0.413
総合計	-	204.83	1.02	100.0	100.0	

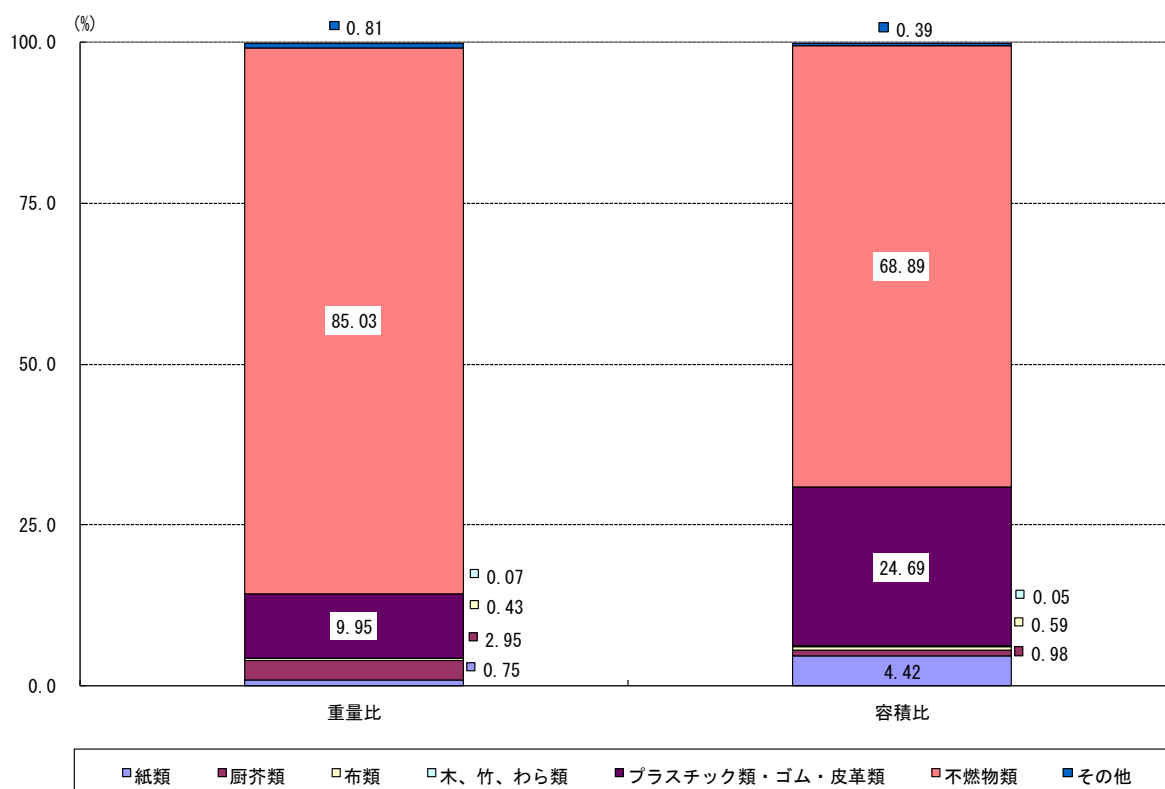


図2-18 大分類組成調査結果 (東部:不燃ごみ)

表2-12 大分類組成調査結果の比較 (東部:不燃ごみ)

項目	重量比					容積比				
	H22	H21	H20	H19	H18	H22	H21	H20	H19	H18
紙類	0.75	0.32	0.50	4.90	1.10	4.42	2.60	5.40	8.80	3.80
厨芥類	2.95	0.22	0.30	0.00	0.20	0.98	0.09	0.00	0.00	0.10
布類	0.43	0.03	0.00	0.60	1.50	0.59	0.05	0.00	0.30	0.30
木、竹、わら類	0.07	0.79	0.10	0.30	0.10	0.05	1.89	0.10	0.30	0.00
プラスチック類・ ゴム・皮革類	9.95	12.54	6.10	9.50	26.00	24.69	28.36	20.50	30.80	51.90
不燃物類	85.03	82.92	89.80	83.40	70.90	68.89	66.06	73.50	58.80	43.80
その他	0.81	3.16	3.30	1.20	0.30	0.39	0.95	0.60	1.00	0.10
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

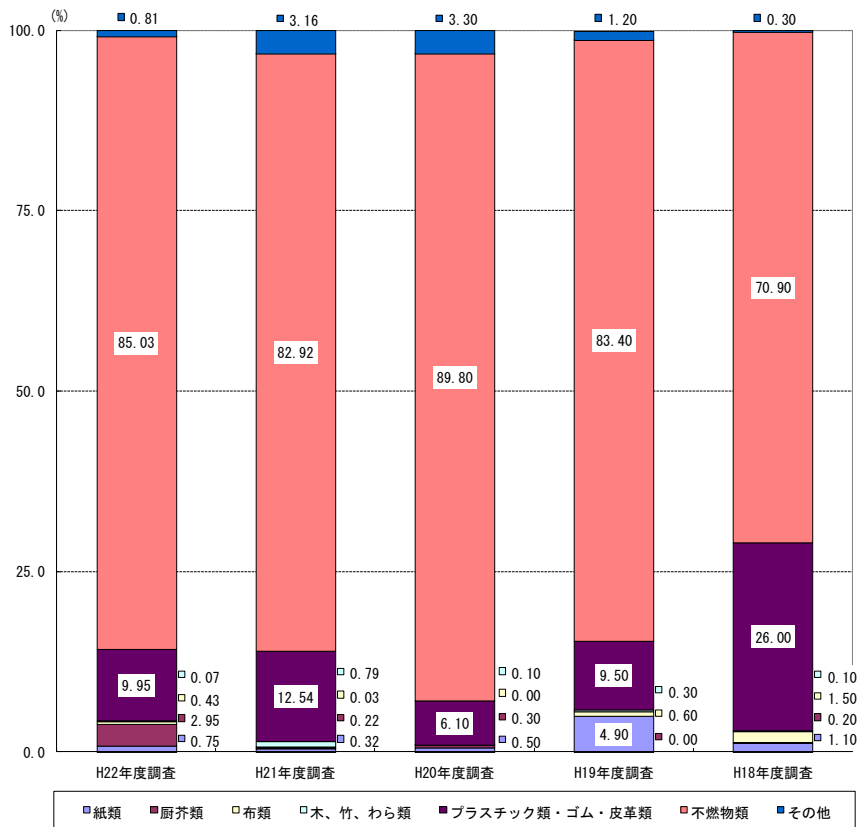


図2-19 重量比の大分類組成調査結果の比較（東部：不燃ごみ）

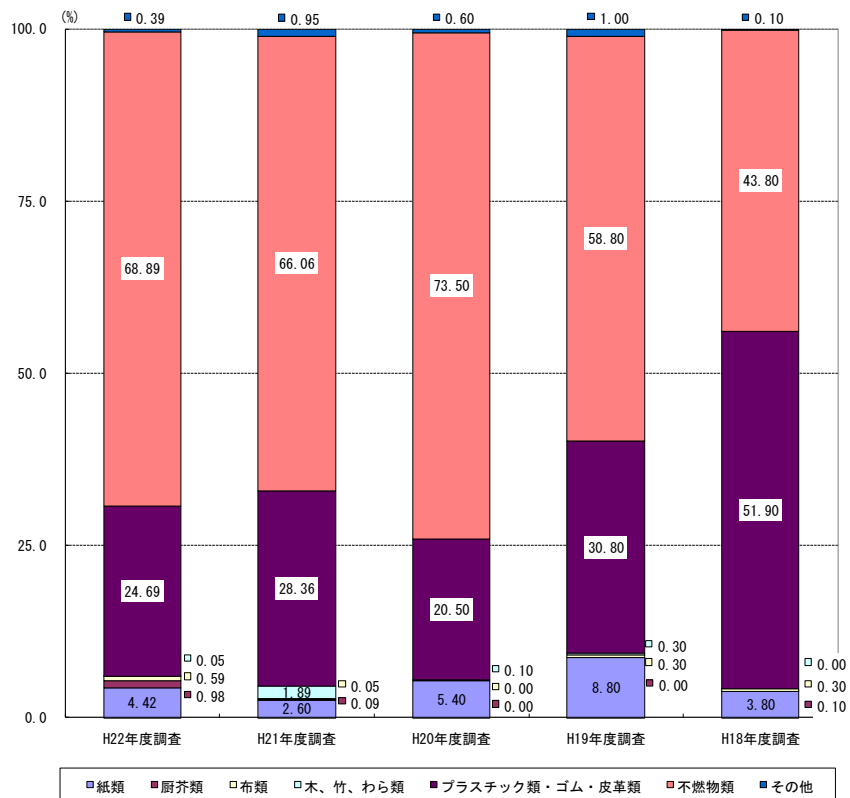


図2-20 容積比の大分類組成調査結果の比較（東部：不燃ごみ）

(4) 不燃ごみの排出特性の総括

平成 18～22 年度の本市全域、西部、東部の構成比を比較した結果を図 2-21～22 に示した。

西部と東部では、西部の方は「プラスチック、ゴム、皮革類」の構成比が高く、東部は「厨芥類」の構成比が高い状況が確認された。

また、本市全域の重量比について、今回の調査結果と過去の調査結果を比較すると、「プラスチック、ゴム、皮革類」ではペットボトルの構成比が 0.25% (H21) から 0.02% に減少、発泡トレイについては 0.1% と昨年と同じ構成比で、「不燃物類」では複合素材の構成比が高くなっていることが特徴としてあげられる。

本年度の調査では、東西地区で排出形態は、容積比においてよく似た構成比で差は、あまり確認されなかった。今後も継続した調査を行いつつ、啓発効果の状況を評価していく必要がある。

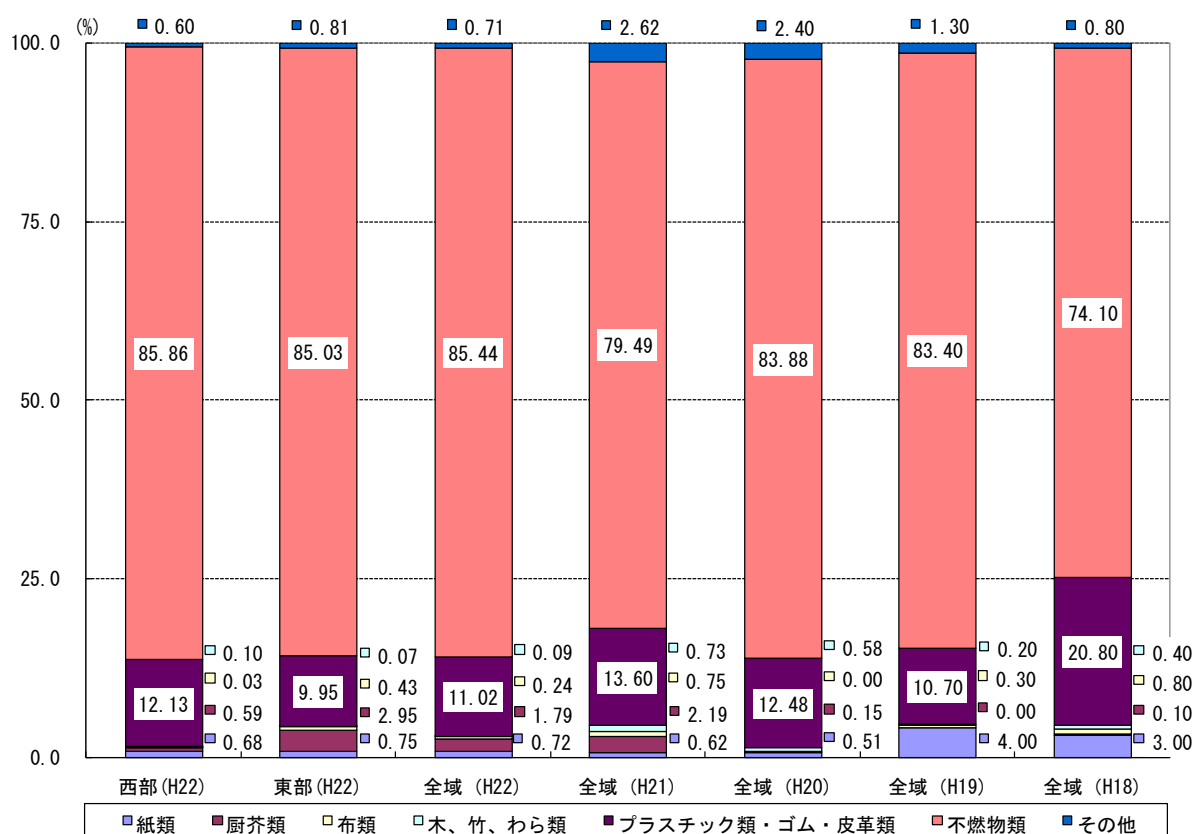


図2-21 大分類組成調査の比較（重量比：不燃ごみ）

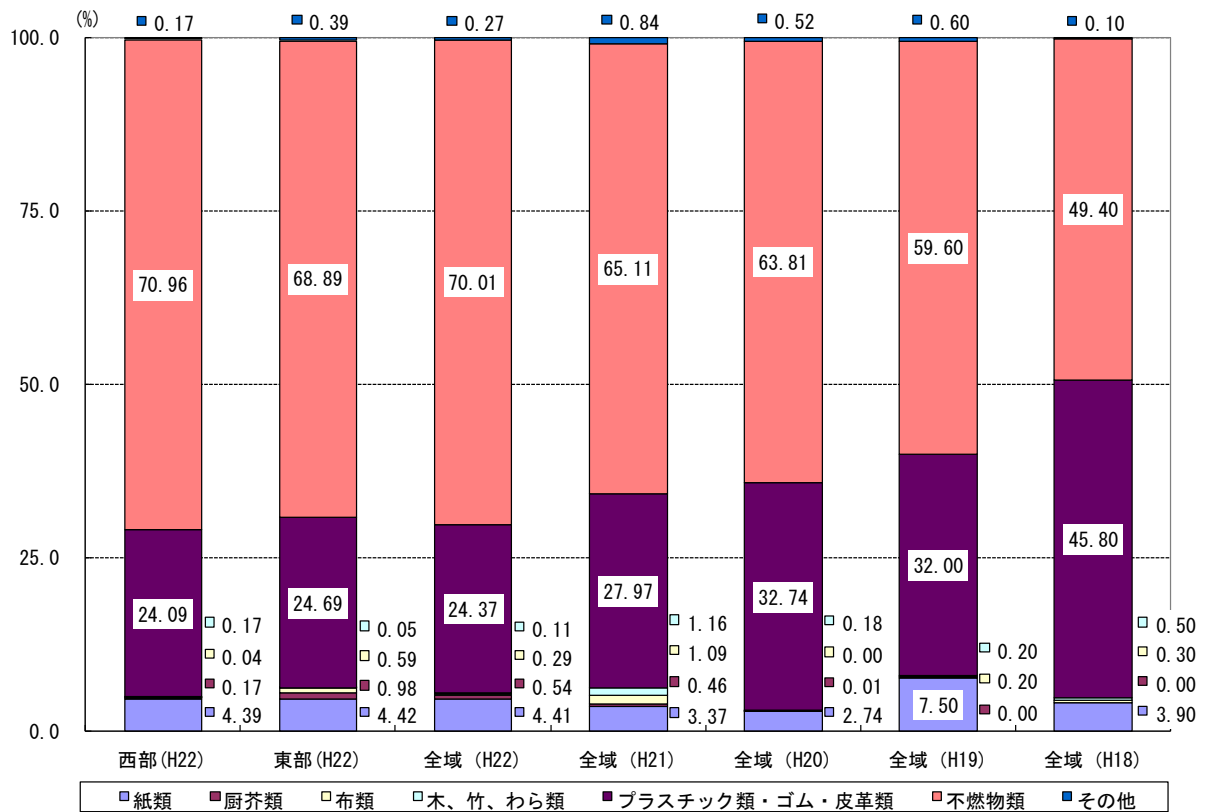


図2-22 大分類組成調査の比較（容積比:不燃ごみ）

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに、可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部及び東部の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-13、図2-23に示した。

今回の調査結果から、可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部で約87.8%（H21:87.3%）、東部で約92.9%（H21:91.9%）となっており、本市全域で見ると約90.3%（H21:89.6%）と、適正分別分の構成比に大幅な変動は確認されなかった。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約8.9%（H21:10.1%）であり、一番多いその他雑紙は分別が難しく、更なる分別の徹底が必要であると推察された。

一方で、混入していた不燃ごみは、本市全域で約0.9%（H21:0.3%）とやや増加傾向が確認されており、本傾向が啓発効果による効果が出ているものと推測される。

表2-13 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区 分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100	100	100
混入していた資源化物	10.93	6.75	8.9
飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	0.56	0.55	0.56
ダンボール	0.09	0.19	0.14
新聞紙	0.00	0.33	0.16
書籍・雑誌類	1.27	0.51	0.90
チラシ	0.00	0.00	0.00
紙箱類	1.83	1.46	1.65
紙包装類	1.00	0.34	0.68
OA用紙	0.24	0.18	0.21
シュレッダーくず	0.41	0.69	0.55
その他雑紙	3.49	1.31	2.42
布類	1.32	0.67	1.00
リサイクルできるペットボトル	0.67	0.46	0.57
リサイクルできる発泡トレイ	0.05	0.00	0.03
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.02	0.01
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池、体温計(水銀入)	0.00	0.04	0.02
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	1.24	0.53	0.89
可燃ごみ(適正排出分)	87.82	92.89	90.30

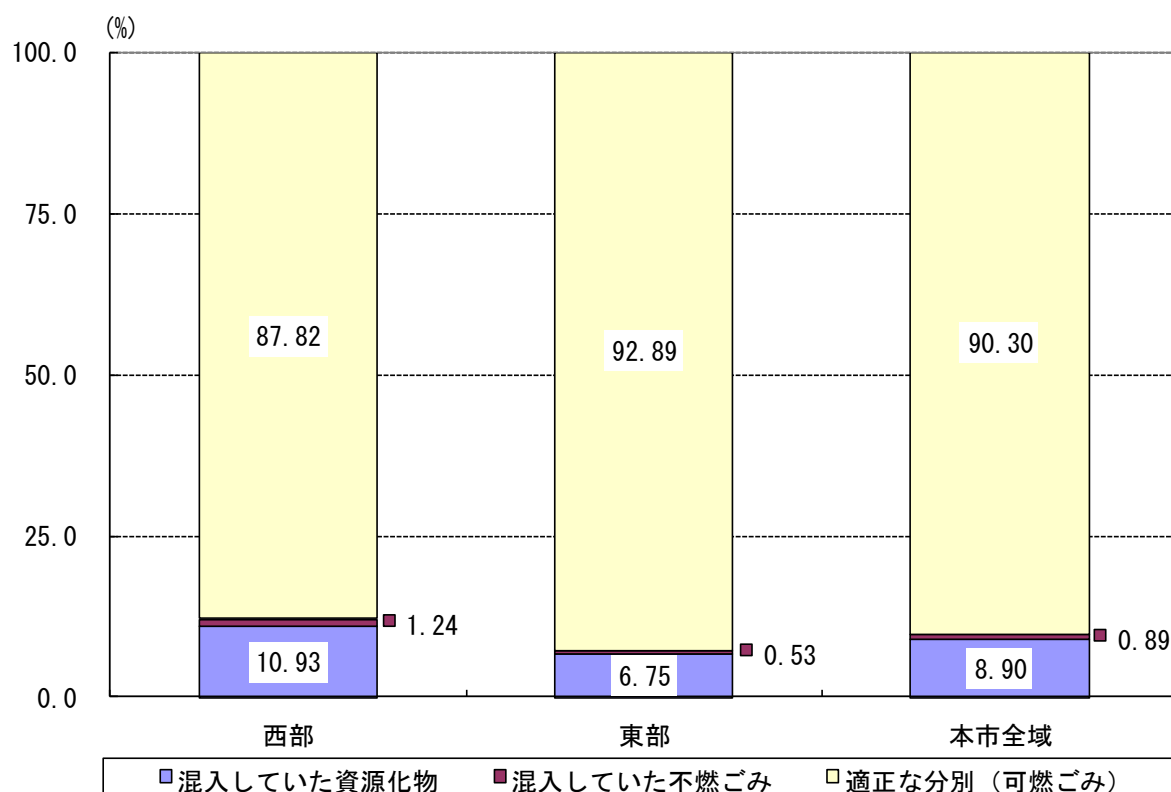


図2-23 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

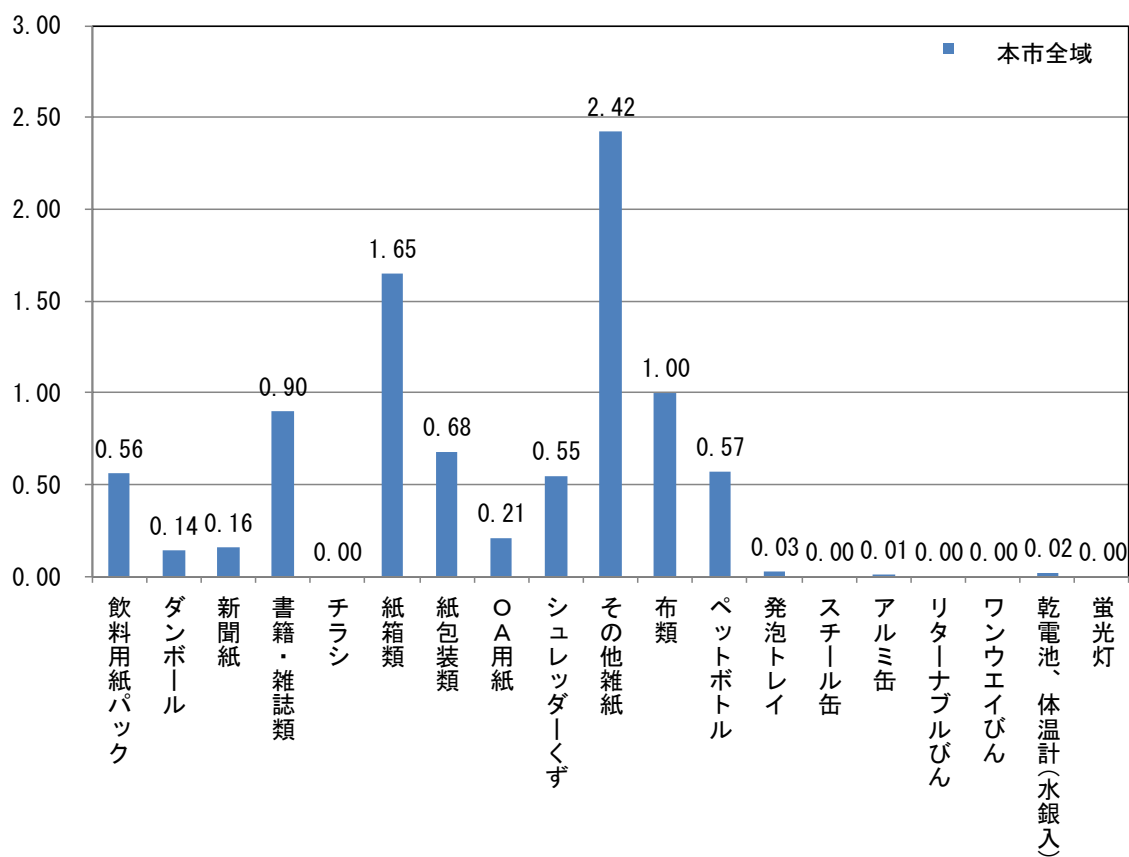


図2-24 可燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

2 不燃ごみの状況把握

西部及び東部の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-14、図 2-25 に示した。

今回の調査結果から、不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部で約 82.8% (H21:73.8%)、東部で約 78.8% (H21:74.9%) となっており、本市全域で見ると約 80.7% (H21:74.3%) と、適正分別分については、改善されている傾向が確認された。

不燃ごみに混入していた可燃ごみの割合は、本市全域で約 13.5% (H21:16.6%) とやや減少傾向である、また資源化物の混入割合も本市全域で約 5.8% (H21:9.1%) と減少していることから、更に適正分別が進んでいるものと推察される。

ただし、混入していた資源化物については、図 2-26 に示すように、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびん、乾電池などの分別し易いものが多く混入していることから、更なる啓発を行う必要があると考えられる。

表2-14 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区 分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
不燃ごみ	100.0	100.0	100.0
混入していた資源化物	3.89	7.54	5.75
飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.02	0.04	0.03
新聞紙	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.08	0.12	0.10
紙包装類	0.04	0.22	0.13
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他雑紙	0.02	0.00	0.01
布類	0.00	0.06	0.03
リサイクルできるペットボトル	0.02	0.00	0.01
リサイクルできる発泡トレイ	0.02	0.00	0.01
スチール缶	1.74	3.11	2.44
アルミ缶	0.23	0.41	0.32
リターナブルびん	1.06	0.00	0.52
ワンウェイびん	0.00	2.25	1.14
乾電池、体温計(水銀入)	0.43	0.70	0.57
蛍光灯	0.23	0.63	0.44
混入していた可燃ごみ	13.34	13.72	13.53
不燃ごみ(適正排出分)	82.76	78.75	80.72

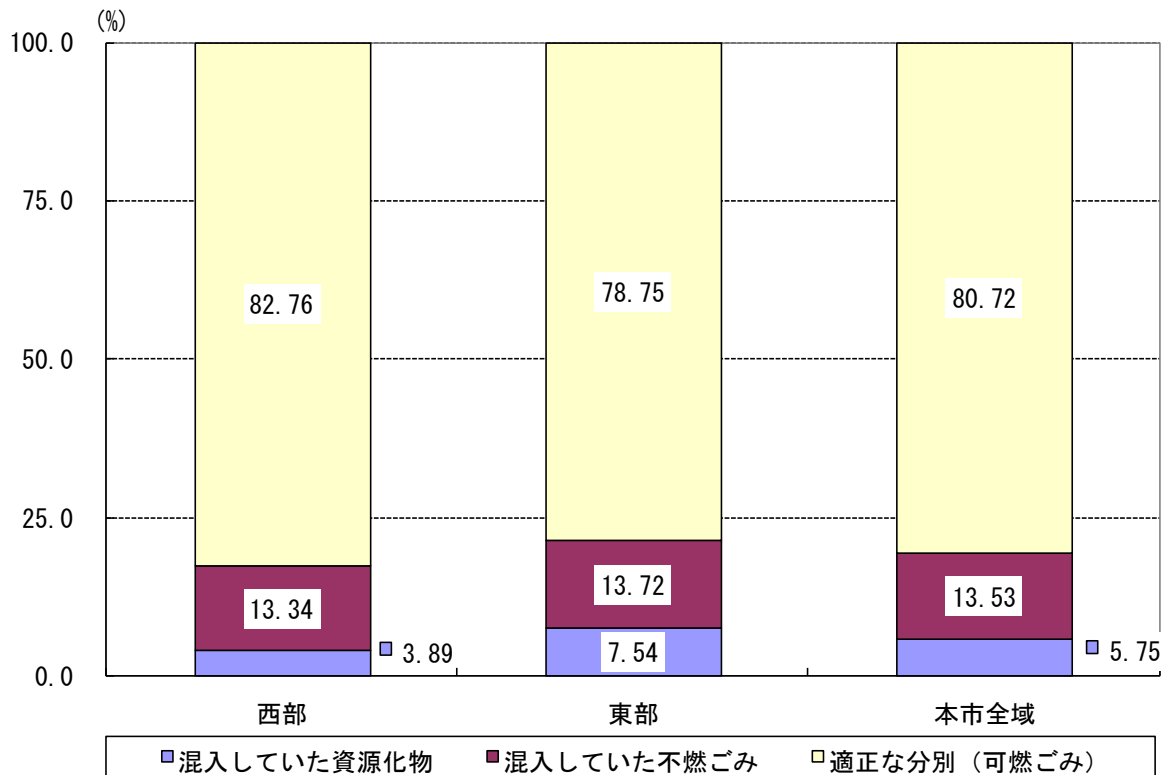


図2-25 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況 (重量比)

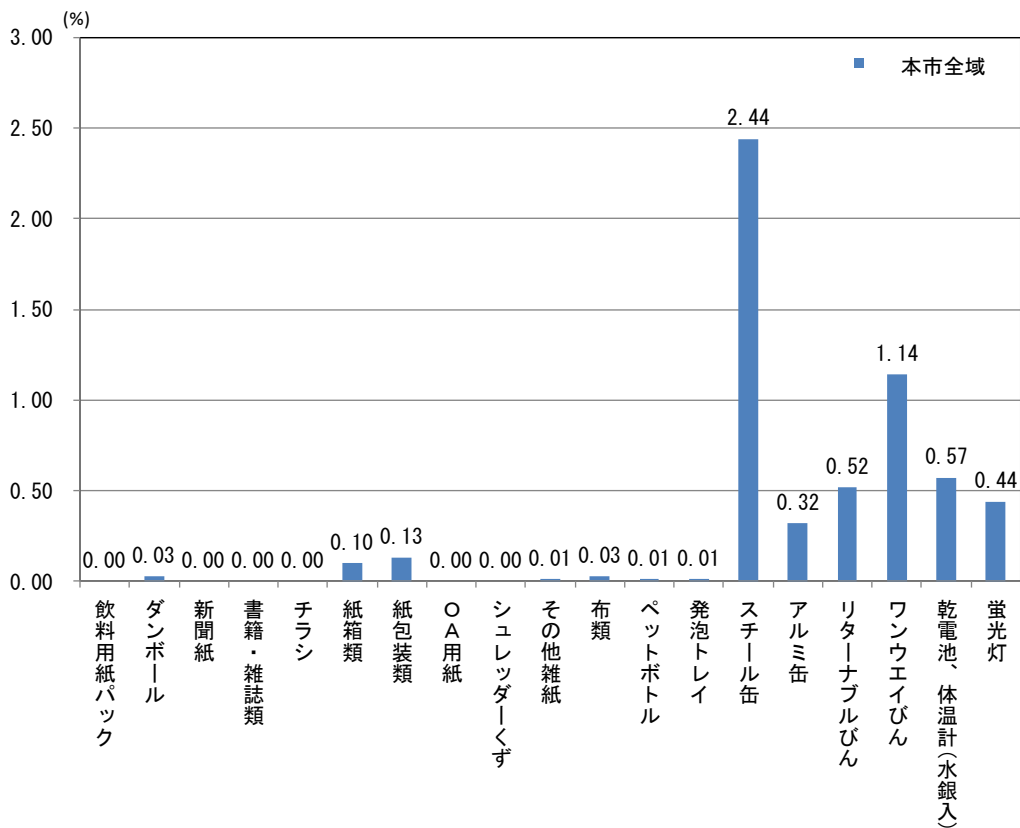


図2-26 不燃ごみに混入していた資源化物の状況 (重量比)

第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、今回の調査結果をもとに、可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部及び東部の不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-15、図 2-27 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 21.2% (H21:15.2%) となっており、やや構成比が高くなっている傾向にある。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック(アルミ不使用)、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、発泡トレイ、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約 4.54% であった。

表2-15 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項 目	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)	資源化対策
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.81	0.71	0.77	○
ダンボール	0.09	0.19	0.14	○
紙箱類	1.83	1.46	1.65	○
紙包装類	1.00	0.34	0.68	○
ペットボトル	1.13	0.57	0.85	○
レジ袋	1.32	1.91	1.61	×
発泡トレイ	0.28	0.28	0.28	○
プラスチック製容器包装類	14.84	15.3	15.07	×
スチール缶	0.06	0.02	0.04	○
アルミ缶	0.09	0.02	0.05	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	○
ワンウェイびん	0.00	0.16	0.08	○
合 計	21.5	21.0	21.2	

- ※ 飲料用紙パック(アルミ不使用)は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ トレイはリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラ製容器包装はリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。

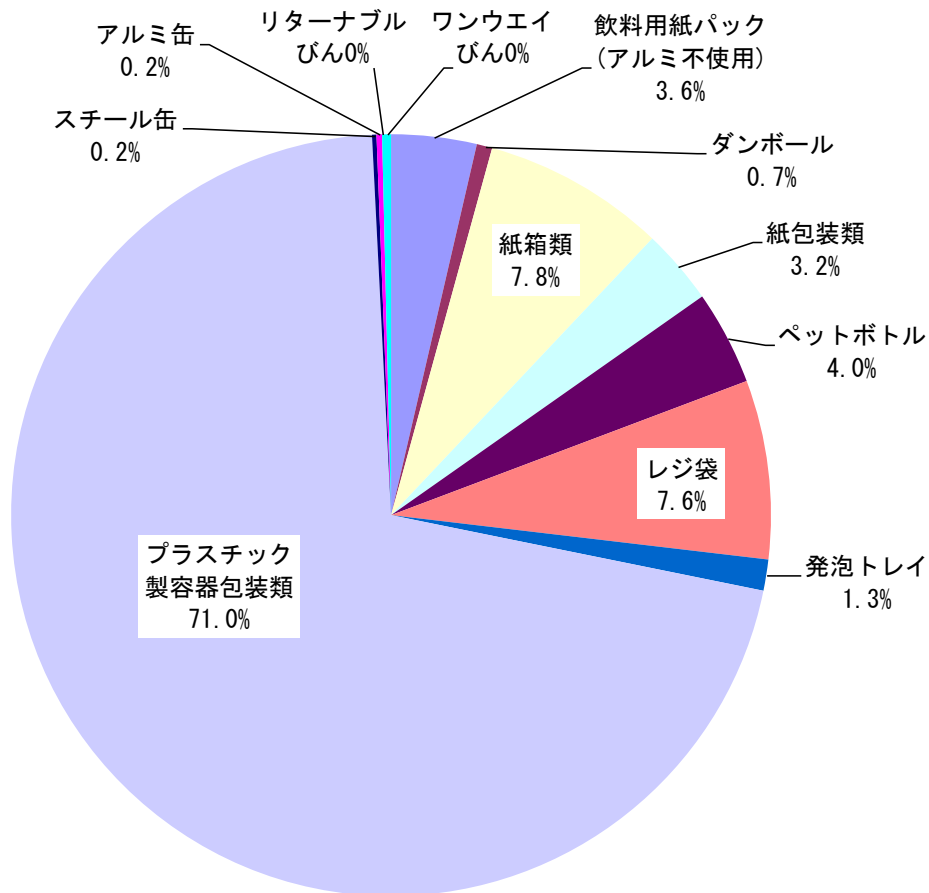


図2-27 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部及び東部の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-16、図 2-28 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 25.1%（H21:10.0%）となっており、昨年の調査結果と比較して約 2.5 倍に増加した。

一方で、容器包装廃棄物の構成割合としては、金属類、びん類は約 89.6%（スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんの合計値：図 2-28 参照）を占めており、昨年の調査結果（84.0%）から考えると依然として構成比が高いため、この 3 品目を中心とした分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-16 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.00	0.00	0.00	○
ダンボール	0.02	0.04	0.03	○
紙箱類	0.08	0.12	0.10	○
紙包装類	0.04	0.22	0.13	○
ペットボトル	0.05	0.00	0.02	○
レジ袋	0.45	0.38	0.41	×
発泡トレイ	0.02	0.00	0.01	○
プラスチック製容器包装類	0.73	3.08	1.92	×
スチール缶	5.79	7.14	6.48	○
アルミ缶	0.23	0.41	0.32	○
リターナブルびん	1.06	0.00	0.52	○
ワンウェイびん	9.66	20.53	15.18	○
合計	18.13	31.92	25.12	

- ※ 飲料用紙パック(アルミ不使用)は500ml以上と500ml未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ トレイはリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラ製容器包装はリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物とリサイクル不可能物の合計値である

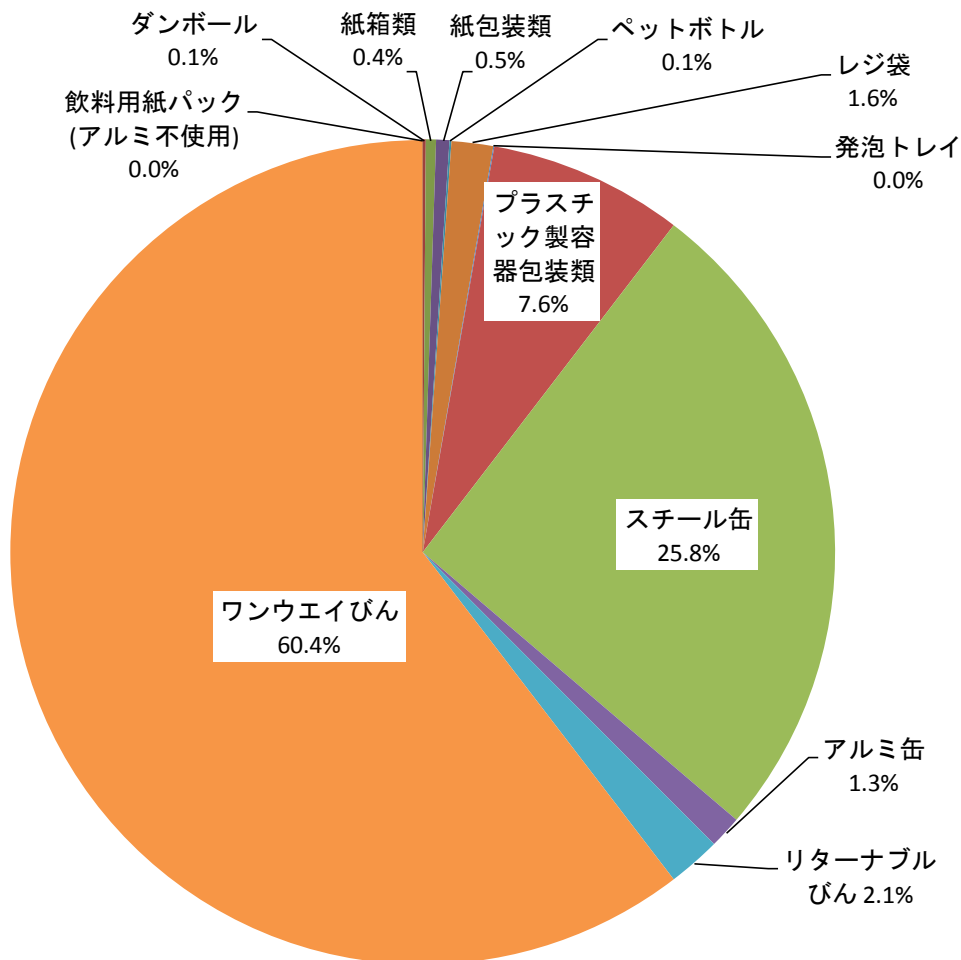


図2-28 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（本市全域：重量比）

第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なもの全てを抽出し、将来的に再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。なお、今回実施した組成調査では、例えば新聞紙・チラシであれば汚れのないきれいなものと、汚れているもの（生ごみを包んだものなど）に分類しており、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。同時に、昨年と同様に、スチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんについては、錆がひどいものやごみが混入しているものなどを分別し、より詳細な排出状況を確認した。

1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本市全域、西部及び東部の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-17 及び図 2-29、図 2-30 に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「紙類」で、全体の約 7.3%（H21:8.1%）を占めていた（表 2-17 参照）。プラスチック類については、汚れのひどいものが多く混入していることも影響して、再資源化が可能なものは約 1.2% 程度（H21:1.7%）と低い値であった。上記の項目については、前年度以前の構成比と比較すると「プラスチック類」は減少傾向を示している、「紙類」も同様な傾向となっているため、雑紙回収などの施策が市民へ浸透されているものと考えられる。

可燃ごみのうち減量化が可能な分類としては、「厨芥類」が挙げられ構成比は本市全域で約 38.7%（H21:41.7%）となっている。今回の調査においても以前の調査同様に、水分も多く含んだ厨芥類の構成比が高かったことから、食べ残しの削減や厨芥類の水切りなどの啓発を市民に行っていくことにより、ごみの減量化が図れるものと考えられた。本年度の構成比は、以前と比較して減少傾向にあるが今後も動向を把握していく必要がある。

次に、本年度に行ったスチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびん、乾電池等のリサイクル可否に関する内訳を表 2-18 に整理した。結果として、今回の調査においては、上記の品目については昨年よりリサイクル不可能の構成比が低くなっているため、分別の徹底が進めば一定の資源化が進むものと推察された。

表2-17 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100.0	100.0	100.0
紙類	25.56	23.34	24.49
再資源化可能なもの	8.89	5.56	7.27
飲料用紙パック500ml以上	0.56	0.55	0.56
ダンボール	0.09	0.19	0.14
新聞紙	0.00	0.33	0.16
書籍・雑誌類	1.27	0.51	0.9
チラシ	0.00	0.00	0
紙箱類	1.83	1.46	1.65
紙包装類	1.00	0.34	0.68
OA用紙	0.24	0.18	0.21
シュレッダーくず	0.41	0.69	0.55
その他雑紙	3.49	1.31	2.42
再資源化不可能なもの	16.67	17.78	17.22
厨芥類	39.24	41.15	40.17
減量化可能なもの	38.78	38.65	38.71
手付かずの食品	4.19	3.91	4.05
調理くず等	34.59	34.74	34.66
減量化不可能なもの	0.46	2.50	1.46
布類	4.65	1.77	3.23
再資源化可能なもの	1.32	0.67	1.00
再資源化不可能なもの	3.33	1.10	2.23
木、竹、わら類	3.45	9.76	6.55
プラスチック類・ゴム・皮革類	25.10	23.20	24.16
再資源化可能なもの	1.21	1.13	1.18
リサイクルできるペットボトル	0.67	0.46	0.57
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.05	0.00	0.03
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.49	0.67	0.58
再資源化不可能なもの	23.89	22.07	22.98
不燃物類	1.14	0.59	0.87
再資源化可能なもの	0.05	0.06	0.05
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.02	0.01
その他金属類	0.05	0.00	0.02
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池、体温計(水銀入)	0.00	0.04	0.02
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	1.09	0.53	0.82
その他分類できないもの	0.76	0.37	0.57

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

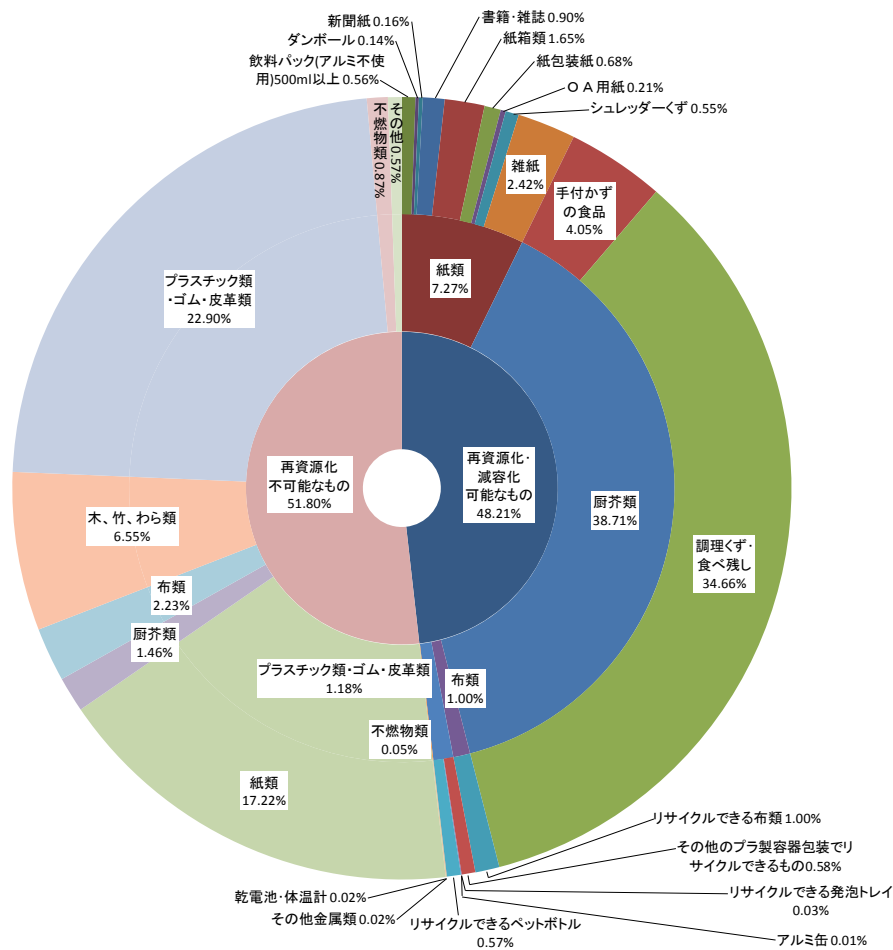


図2-29 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（本市全域：重量比）

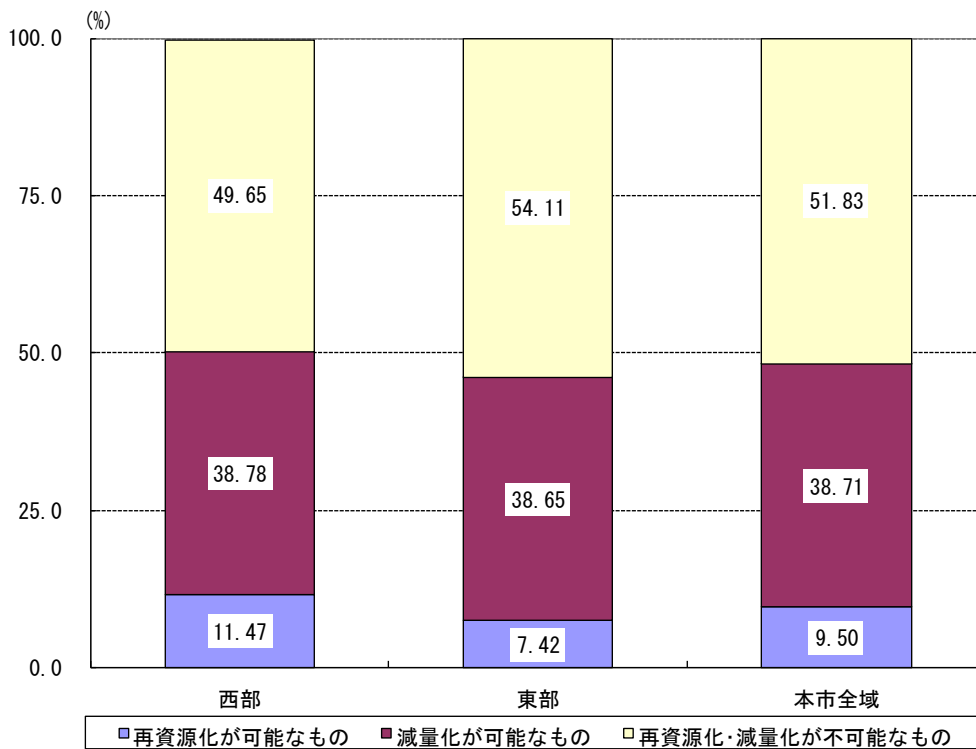


図2-30 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

表2-18 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

品 目	H21年度調査		備考 (H20年度調査) %
	調査結果 (%)	構成比 (%)	
スチール缶	0.14	100.00	0.14
リサイクル可能	0.14	100.00	0.14
リサイクル不可能	—	—	—
アルミ缶	—	—	0.03
リサイクル可能	—	—	0.03
リサイクル不可能	—	—	—
リターナブルびん	—	—	—
リサイクル可能	—	—	—
リサイクル不可能	—	—	—
ワンウェイびん	—	—	0.11
リサイクル可能	—	—	0.11
リサイクル不可能	—	—	—
電池等	—	—	—
乾電池	—	—	—
蛍光灯	—	—	—

2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本市全域、西部及び東部の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-19 及び図 2-31、図 2-32 に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類はスチール缶、アルミ缶、その他金属類、リターナブルびん及びワンウェイびんで、全体の約 15.8%（H21:27.7%）を占めていた（表 2-19 参照）。一方でプラスチック類のうち再資源化が可能なものは約 0.3%（H21:0.3%）となっており、可燃ごみと同様にマテリアルリサイクルを対象とした再資源化に適さないものが多いことが確認された。

次に、本年度に行ったスチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびん、乾電池等のリサイクル可否に関する内訳を表 2-20 に整理した。結果として、昨年の調査結果と比較して、スチール缶、アルミ缶、ワンウェイびんについては、リサイクル不可能の構成比が少なくなっているため、分別の徹底が進めば一定の資源化が進むものと推察された。

表2-19 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100.0	100.0	100.0
紙類	0.68	0.75	0.72
再資源化可能なもの	0.16	0.38	0.27
飲料用紙パック500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.02	0.04	0.03
新聞紙	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.08	0.12	0.10
紙包装類	0.04	0.22	0.13
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他雑紙	0.02	0.00	0.01
再資源化不可能なもの	0.52	0.37	0.45
厨芥類	0.59	2.95	1.79
減量化可能なもの	0.59	2.95	1.79
手付かずの食品	0.59	2.95	1.79
調理くず等	0.00	0.00	0.00
減量化不可能なもの	0.00	0.00	0.00
布類	0.03	0.44	0.24
再資源化可能なもの	0.00	0.06	0.03
再資源化不可能なもの	0.03	0.38	0.21
木、竹、わら類	0.10	0.07	0.09
プラスチック類・ゴム・皮革類	12.15	9.95	11.01
再資源化可能なもの	0.09	0.49	0.29
リサイクルできるペットボトル	0.02	0	0.01
リサイクルできるレジ袋	0.00	0	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.02	0	0.01
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.05	0.49	0.27
再資源化不可能なもの	12.06	9.46	10.72
不燃物類	85.85	85.04	85.44
再資源化可能なもの	16.09	17.46	16.79
スチール缶	1.74	3.11	2.44
アルミ缶	0.23	0.41	0.32
その他金属類	12.4	10.36	11.36
リターナブルびん	1.06	0	0.52
ワンウェイびん	0.00	2.25	1.14
乾電池、体温計(水銀入)	0.43	0.7	0.57
蛍光灯	0.23	0.63	0.44
再資源化不可能なもの	69.76	67.58	68.65
その他分類できないもの	0.60	0.81	0.71

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

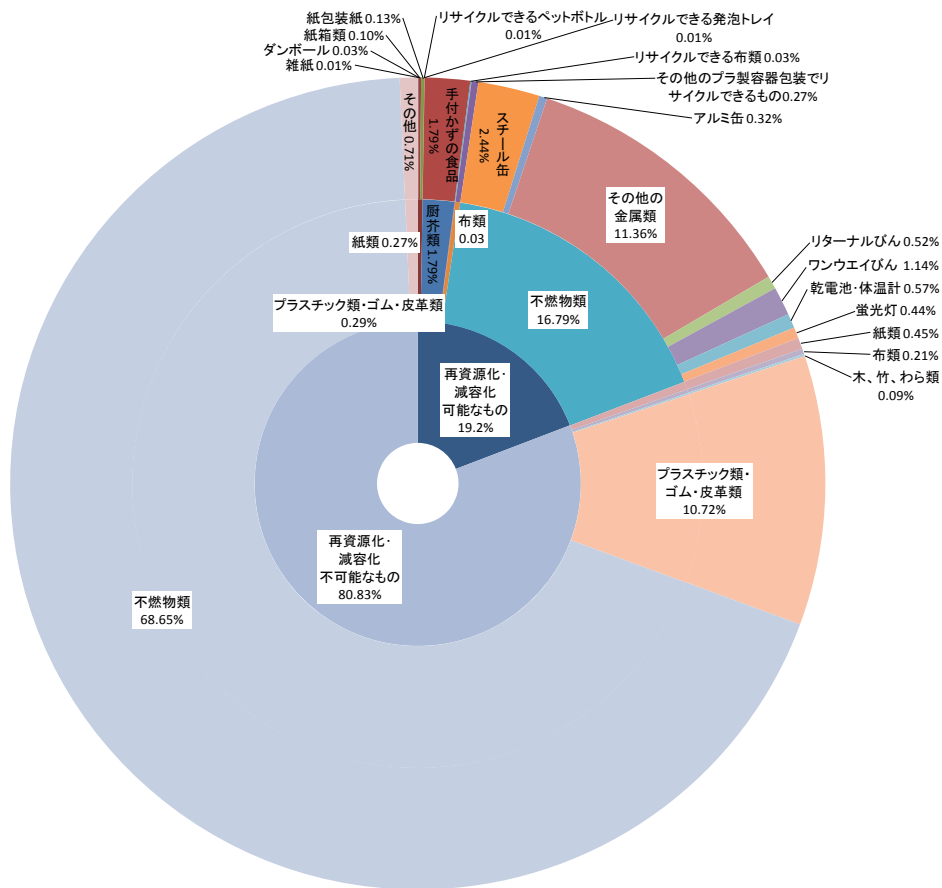


図2-31 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（本市全域：重量比）

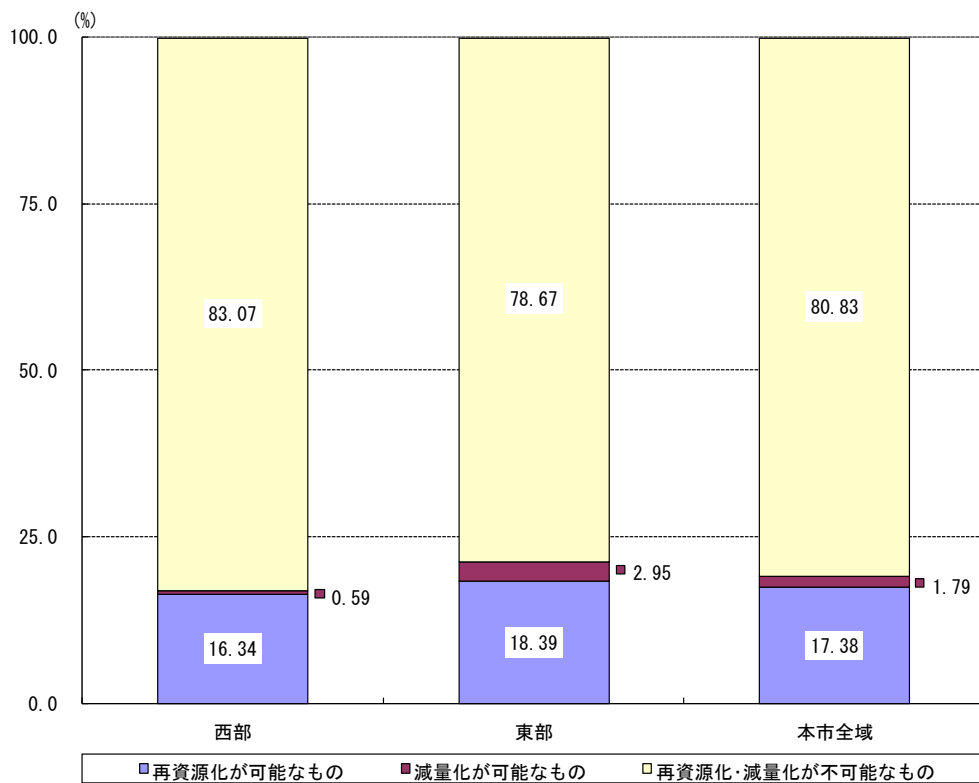


図2-32 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

表2-20 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

品 目	H22年度調査		備考 (H21年度調査)%
	調査結果 (%)	構成比 (%)	
スチール缶	6.48	100.0	3.81
リサイクル可能	2.44	37.65	2.53
リサイクル不可能	4.04	62.35	1.28
アルミ缶	0.32	100.0	0.29
リサイクル可能	0.32	100.0	0.27
リサイクル不可能	—	—	0.02
リターナブルびん	0.52	100.0	0.86
リサイクル可能	0.52	100.0	0.39
リサイクル不可能	—	—	0.47
ワンウェイびん	15.18	100.0	10.52
リサイクル可能	1.14	7.5	5.22
リサイクル不可能	14.04	92.5	5.30

第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、45ℓ（大袋）・30ℓ（中袋）・20ℓ（小袋）・10ℓ（特小袋）・5ℓ（超特小袋）を対象としてごみ袋への投入量を確認した。

1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

（1）可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部及び東部の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-21に示した。

調査結果として45ℓ（大袋）1袋につき西部では0.8～8.1kg（H21:1.0～14.9kg）、東部では1.4～7.8kg（H21:2.0～8.1kg）の範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.06kg（H21:6.16kg）が投入されており、1袋当たりの投入量の推移は約30%の減少傾向となっている。30ℓ（中袋）1袋につき西部では1.0～9.9kg、東部では0.8～7.6kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.80kgが投入されていた。20ℓ（小袋）も同様に調査した結果、1袋につき西部で0.8～5.3kg、東部で1.3～5.2kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.99kgが投入されており、10ℓ（特小袋）1袋につき西部では0.4～2.7kg、東部では0.4～4.1kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.58kgが投入されており、5ℓ（超特小袋）1袋につき西部では0.6kg、東部では0.6～1.5kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.04kgが投入されていた。

表 2-21 可燃ごみ 1 袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	40	24	39	24	29	23	17	18	1	5
総重量(kg)	161.40	98.74	143.52	95.70	86.36	69.19	22.33	33.08	0.62	5.59
1袋当りの重量(kg/袋)	3.78	4.11	3.68	3.99	2.98	3.01	1.31	1.84	0.62	1.12
備考	(本市全域) 4.06kg/袋		(本市全域) 3.80kg/袋		(本市全域) 2.99kg/袋		(本市全域) 1.58kg/袋		(本市全域) 1.04kg/袋	

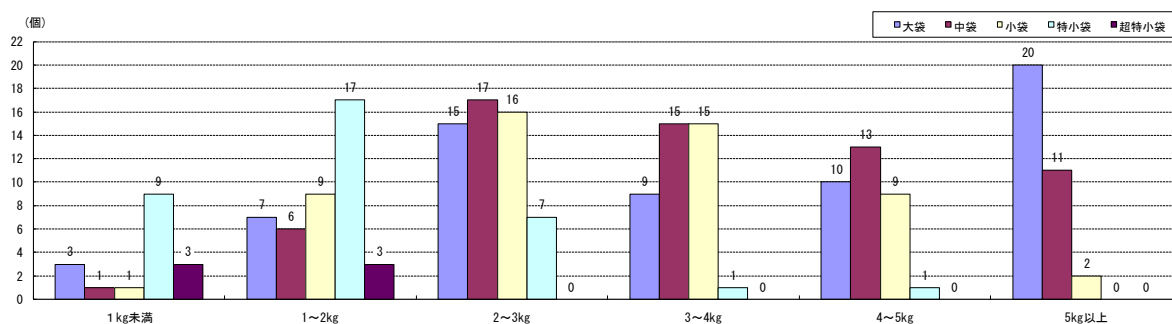


図2-33 可燃ごみ 1 袋当たりの投入量の分布状況

(2) 可燃ごみの 1 袋当たりの投入容量

西部及び東部の可燃ごみ 1 袋当たりの投入容量の状況を、表 2-22 に示した。

調査結果として 45ℓ (大袋) 1 袋につき西部では 28~60ℓ、東部では 28~55ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で 1 袋当たり約 38.6ℓが投入されていた。

30ℓ (中袋) 1 袋につき西部では 15~50ℓ、東部では 18~50ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で 1 袋当たり約 31.1ℓが投入されていた。20ℓ (小袋) では、1 袋につき西部で 10~25ℓ、東部で 28~40ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で 1 袋当たり約 19.5ℓが投入されていた。10ℓ (特小袋) 1 袋につき西部では 12~28ℓ、東部では 15~25ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で 1 袋当たり約 9.5ℓが投入されており、5ℓ (超特小袋) 1 袋につき西部では 3ℓ、東部では 4~20ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で 1 袋当たり約 12.0ℓが投入されていた。

次に、図 2-35 に可燃ごみのごみ袋の分布状況を示したが 45ℓ相当のごみ袋 (開放状態で約 70ℓ投入可能) の分布としては、30~40ℓの投入範囲でやや余裕を持った捨て方をしている層が約 31%と昨年の 24%を上回り、40ℓ以上のほぼ満載した捨て方をしている層が約 63%と昨年の 76%を下回っていた。小袋については、20ℓ未満の分布状況が約 44%だった。

表2-22 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	40	24	39	24	29	23	17	18	1	5
総重量(L)	1701	926	1207	750	542	473	148	183	3	69
1袋当たりの容積(L/袋)	42.53	38.58	30.95	31.25	18.69	20.57	8.71	10.17	3.0	13.80
備考	(本市全域)38.58L/袋		(本市全域)31.06L/袋		(本市全域)19.52L/袋		(本市全域)9.46L/袋		(本市全域)12.00L/袋	

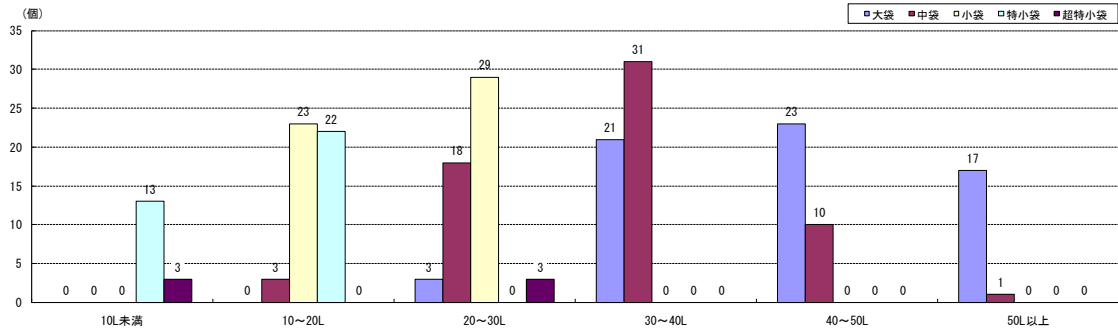


図2-34 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部及び東部の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-23に示した。

調査結果として45ℓ(大袋)1袋につき西部では1.7~11.6kg(H21:1.7~12.0kg)、東部では2.3~10.6kg(H21:0.6~17.1kg)の範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約5.60kg(H21:6.88kg)が投入されており、1袋当たりの投入量の推移は増傾向となっている。30ℓ(中袋)1袋につき西部では2.5~9.3kg、東部では1.3~8.2kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.44kgが投入されていた。20ℓ(小袋)も同様に調査した結果、1袋につき西部で1.1~11.7kg、東部で2.3~7.2kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.45kgが投入されていた。10ℓ(特小袋)1袋につき西部では1.3~5.1kg、東部では0.3~3.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.50kgが投入されており、5ℓ(超特小袋)1袋につき、東部では0.2~1.8kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.16kgが投入されていた。

次に、図 2-35 に不燃ごみのごみ袋の分布状況を示したが、1 袋当たり 3 kg 以上の分布状況は昨年と比べ 20ℓと 30ℓ相当のごみ袋の分布状況が高い傾向となっていた。

表2-23 不燃ごみ 1 袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	15	15	22	22	26	29	18	30	0	6
総重量(kg)	71.66	96.36	100.86	94.54	100.44	122.03	52.44	67.68	0	6.96
1袋当たりの重量(kg/袋)	4.78	6.42	4.58	4.30	3.86	4.21	2.91	2.26	0	1.16
備考	(本市全域) 5.60kg/袋		(本市全域) 4.44kg/袋		(本市全域) 4.45kg/袋		(本市全域) 2.50kg/袋		(本市全域) 1.16kg/袋	

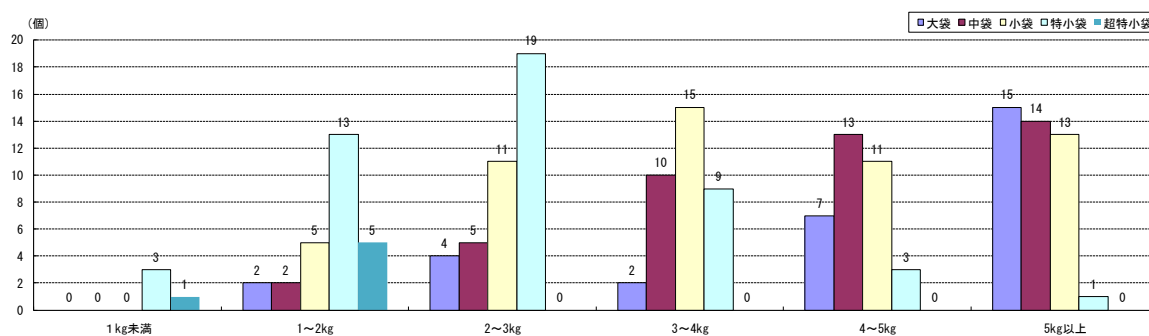


図2-35 不燃ごみ 1 袋当たりの投入量の分布状況

(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部及び東部の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-24に示した。

調査結果として45ℓ(大袋)1袋につき西部では20~70ℓ、東部では30~70ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約44.13ℓが投入されていた。30ℓ(中袋)1袋につき西部では20~50ℓ、東部では20~50ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約32.07ℓが投入されていた。20ℓ(小袋)1袋につき西部では8~40ℓ、東部では10~40ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約23.53ℓが投入されていた。10ℓ(特小袋)1袋につき西部では8~30ℓ、東部では2~18ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.69ℓが投入されており、5ℓ(超特小袋)1袋につき東部では1~8ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.83ℓが投入されていた。次に、図2-36に不燃ごみのごみ袋の分布状況を示したが45ℓ相当のごみ袋(開放状態で約70ℓ投入可能)の分布としては、40ℓ未満の投入範囲とやや余裕を持った捨て方をしている層が約37%、40~50ℓのほぼ満載した捨て方をしている層が約37%であった。小袋では20ℓ未満の分布状況が約36%を占めていた。

表2-24 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	15	15	22	22	26	29	18	30	0	6
総重量(kg)	609	715	733	678	563	731	259	302	0	29
1袋当たりの容積(L/袋)	40.60	47.67	33.32	30.82	21.65	25.21	14.39	10.07	0	4.83
備考	(本市全域)44.13L/袋		(本市全域)32.07L/袋		(本市全域)23.53L/袋		(本市全域)11.69L/袋		(本市全域)4.83L/袋	

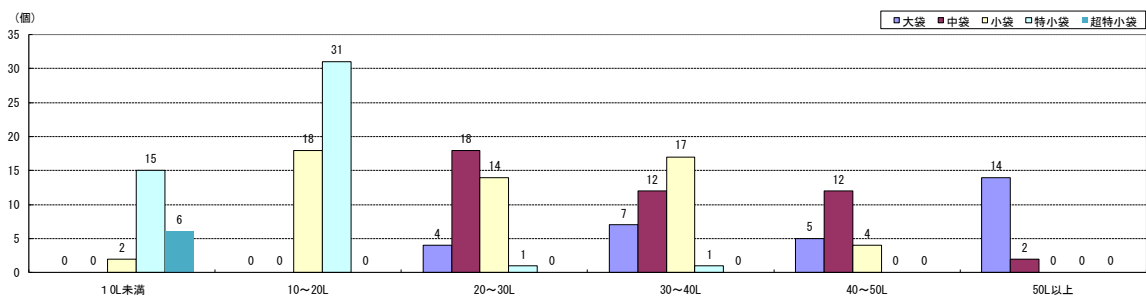


図2-36 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

家庭ごみ組成分析調査結果の総括

第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

1 地域的なごみの排出特性の把握

地域的なごみの排出特性としては、平成 21 年度に実施した調査地域とほぼ同様の地区であったことから、この結果と類似するものとなった。

可燃ごみについては、不燃物類の構成比が昨年と比較して高い状況であったことや、プラスチック、ゴム、皮革類の構成比が高くなっているなどの傾向が確認された。また、「木・竹・わら類」については、4年間の傾向として、西部より東部の構成比が高く「布類」に関しては西部地区が東部地区より構成比が高くなっていることが確認された。

不燃ごみについては、プラスチック類などの構成比が減少し、西部地区で「プラスチック、ゴム、皮革類」の構成比が高く、東部地区では「厨芥類」の構成比が高いことが確認された。

可燃ごみ及び不燃ごみの構成比の分布状況は、過去の調査結果と類似していることから、排出特性に大幅な変化はないものと考えられる。

2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本市における可燃ごみ及び不燃ごみの分別状況としては、可燃ごみでは約 9.8% (H21:10.5%)、不燃ごみでは約 19.3% (H21:25.7%) のごみが、不適正な分別区分のごみであることが確認された。

可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約 8.9% (H21:10.1%)、不燃ごみが約 0.9% (H21:0.3%) となっており、同様に不燃ごみの内訳としては、資源化物が約 5.8% (H21:9.1%)、可燃ごみが約 13.5% (H21:16.6%) となっていた。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区 分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100	100	100
混入していた資源化物	10.93	6.75	8.9
飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	0.56	0.55	0.56
ダンボール	0.09	0.19	0.14
新聞紙	0.00	0.33	0.16
書籍・雑誌類	1.27	0.51	0.90
チラシ	0.00	0.00	0.00
紙箱類	1.83	1.46	1.65
紙包装類	1.00	0.34	0.68
OA用紙	0.24	0.18	0.21
シュレッダーくず	0.41	0.69	0.55
その他雑紙	3.49	1.31	2.42
布類	1.32	0.67	1.00
リサイクルできるペットボトル	0.67	0.46	0.57
リサイクルできる発泡トレイ	0.05	0.00	0.03
スチール缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.02	0.01
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
乾電池、体温計(水銀入)	0.00	0.04	0.02
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	1.24	0.53	0.89
可燃ごみ(適正排出分)	87.82	92.89	90.30

※ 上記表のデータは表2-1に示したデータを採用している。

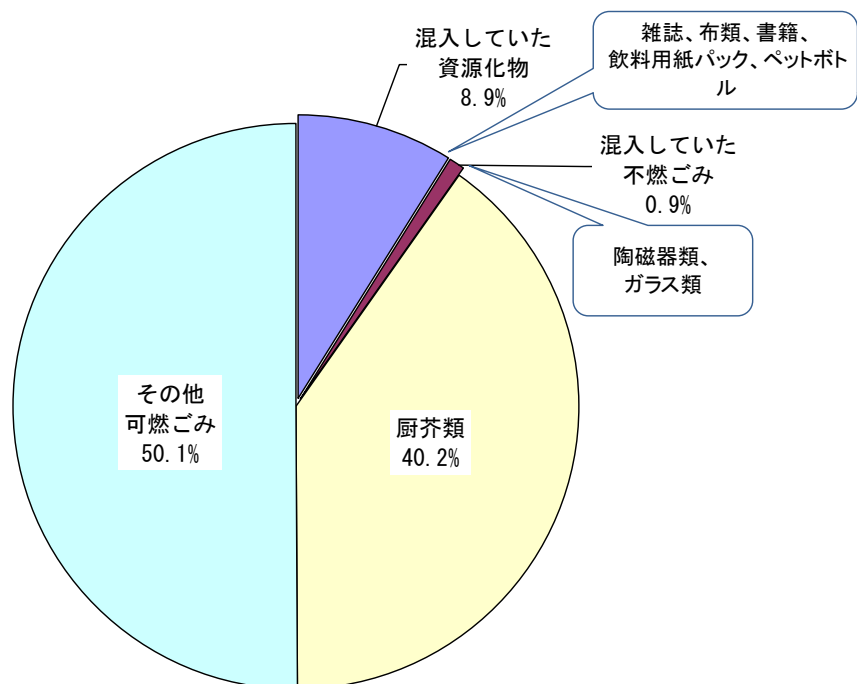


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区 分	西部 (%)	東部 (%)	本市全域 (%)
不燃ごみ	100.0	100.0	100.0
混入していた資源化物	3.89	7.54	5.75
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.02	0.04	0.03
新聞紙	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.08	0.12	0.10
紙包装類	0.04	0.22	0.13
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他雑紙	0.02	0.00	0.01
布類	0.00	0.06	0.03
リサイクルできるペットボトル	0.02	0.00	0.01
リサイクルできる発泡トレイ	0.02	0.00	0.01
スチール缶	1.74	3.11	2.44
アルミ缶	0.23	0.41	0.32
リターナブルびん	1.06	0.00	0.52
ワンウェイびん	0.00	2.25	1.14
乾電池、体温計（水銀入）	0.43	0.70	0.57
蛍光灯	0.23	0.63	0.44
混入していた可燃ごみ	13.34	13.72	13.53
不燃ごみ（適正排出分）	82.76	78.75	80.72

※ 上表のデータは表 2-7 に示したデータを採用している。

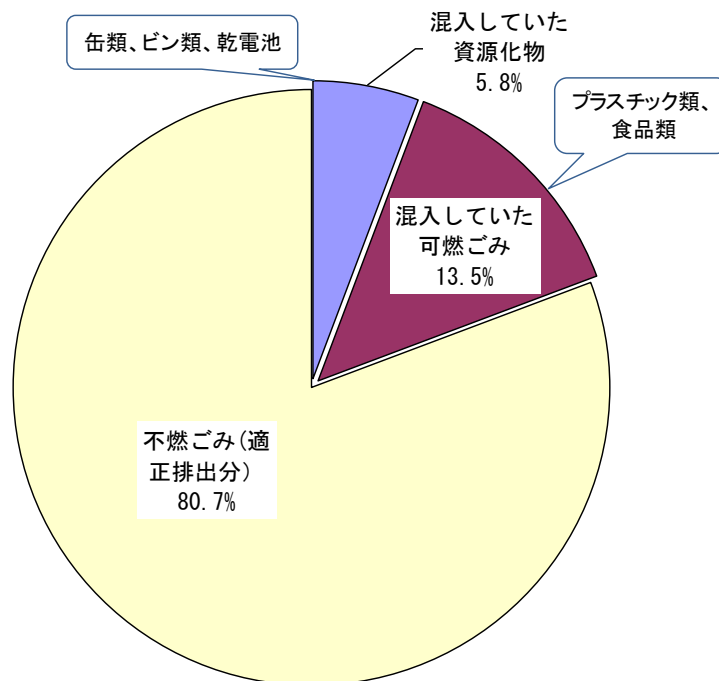


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、可燃ごみ、不燃ごみとも構成比が高くなっている状況が確認された。

可燃ごみについては飲料用紙パック(アルミ不使用)、ダンボール、ペットボトル、不燃ごみについてはスチール缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんなど比較的容易に分別可能な品目の構成比が高いことから今後も啓発を実施していく必要がある

4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域で見ると、可燃ごみで約 48.2% (H21:53.2%)、不燃ごみで約 19.2% (H21:31.4%) という状況であった。

可燃ごみのうち再資源可能な項目としては、紙類は雑紙回収などの施策により構成比は低くなり、厨芥類については過去の調査結果同様に構成割合が高く、水切りや食べ残しを少なくするなどの啓発を継続して行っていく必要があると考えられた。

不燃ごみでは、スチール類、その他金属類、ワンウェイびんなどの品目の構成比が高くなっていた。

5 ごみ袋 1 袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみ量としては、可燃ごみでは 45ℓの大袋が 4.06kg/袋、30ℓの中袋が 3.80kg/袋、20ℓの小袋が 2.99kg/袋、10ℓの特小袋が 1.58kg/袋、5ℓの超特小袋が 1.04kg/袋、という状況で、不燃ごみでは 45ℓの大袋が 5.60kg/袋、30ℓの中袋が 4.44kg/袋、20ℓの小袋が 4.45kg/袋、10ℓの特小袋が 2.50kg/袋、5ℓの超特小袋が 1.16kg/袋という状況であった。

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの容量としては、可燃ごみでは 45ℓの大袋が 38.58ℓ/袋、30ℓの中袋が 31.06ℓ/袋、20ℓの小袋が 19.52ℓ/袋、10ℓの特小袋が 9.46ℓ/袋、5ℓの超特小袋が 12.00ℓ/袋という状況で、不燃ごみでは 45ℓの大袋が 44.13ℓ/袋、30ℓの中袋が 32.07ℓ/袋、20ℓの小袋が 23.53ℓ/袋、10ℓの特小袋が 11.69ℓ/袋、5ℓの超特小袋が 4.83ℓ/袋という状況であった。




6 今後の課題

本年度の調査結果については、雑紙の分別の開始や、古紙類などの回収頻度を増加したこと、可燃ごみ及び不燃ごみの処理の有料化などの施策を実施したことから、ごみの分別意識は向上していると考えられる。今後更に分別意識の向上の啓蒙を行う必要があると考えられる。

《家庭ごみ組成分析調査の流れ1》

	状況写真	概要
収集段階		各ステーションからサンプルを収集する
調査場所へ搬入		調査実施場所へ搬入したサンプルを大・中・小・特小・超特小に分けて並べ、奇数番号を取り出し、調査検体とする。
計量段階		ごみ袋を全て計量する。

《家庭ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
分別作業段階		<p>調査検体を表1-2に示した品目に分別する。</p>
分別後の段階		<p>分別が完了した後の状況の写真撮影を行った。</p>
分別後計量段階		<p>全ての分別が完了した後、計量を行う。計量は、分別を行った全ての品目を実施している。</p>
<p>以上の作業を、西部及び東部の可燃ごみ、不燃ごみに対して実施した。</p>		